

マネジメント研究科 マネジメント研究科 専門職学位課程 (2014年度入学)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■ベーシック科目	経営戦略 高橋 秀直	2学期	1	2	1
	1年				
	マーケティング 山口 徹也	1学期	1	2	2
	1年				
	アカウンティング 任 章	1学期	1	2	3
	1年				
	ファイナンス 武田 寛	2学期	1	2	4
1年					
組織とイノベーション 鳥取部 真己	1学期	1	2	5	
1年					
マネジメント入門 高橋 秀直	1学期	1	2	6	
1年					
経済学入門 後藤 尚久 他	1学期	1	2	7	
1年					
■アドバンスト科目	マーケティング戦略 岩熊 正道	集中	1	2	8
	1年				
	知識マネジメント 越出 均	1学期	1	2	9
	1年				
	パブリック・マネジメント 永津 美裕	1学期	1	2	10
	1年				
	国際ビジネス・スキル アダム・ヘイルズ	1学期	1	2	11
	1年				
ロジスティックス 斉藤 淳	2学期	2	2	12	
2年					
問題解決スキル 平山 克己	1学期	1	2	13	
1年					
チーム・マネジメント 山口 裕幸	集中	2	2	14	
2年					
国際経営 王 効平	1学期	1	2	15	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■アドバンスト科目	地域づくり総論 城戸 宏史	1学期	2	2	16
	2年				
	会社法 高橋 衛	1学期	2	2	17
	2年				
	管理会計 大崎 美泉	1学期	2	2	18
	2年				
	経営倫理 齋藤 貞之	1学期	1	2	19
	1年				
	財務諸表分析 任 章	2学期	1	2	20
	1年				
	人材マネジメント 鳥取部 真己	2学期	1	2	21
	1年				
	地域産業 平田 エマ	2学期	2	2	22
	2年				
環境ビジネス 松永 裕己	1学期	2	2	23	
2年					
■エグゼクティブ科目	ベンチャー・ビジネス 越出 均	2学期	1	2	24
	1年				
	戦略的提携と事業創造 森永 泰正	1学期	2	2	25
	2年				
	フィナンシャル・インベストメント 武田 寛	1学期	2	2	26
	2年				
	中国ビジネス 田端 弘道	1学期	2	2	27
	2年				
	環境政策 松岡 俊和	1学期	2	2	28
	2年				
医療マネジメント 小野村 健太郎	1学期	2	2	29	
2年					
福祉マネジメント 今村 浩司	1学期	2	2	30	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■エグゼクティブ科目	自治体政策 南 博	2学期	2	2	31
		2年			
	モノづくり競争力の強化 杉山 新治	2学期	1	2	32
		1年			
	ソーシャル・ビジネス 松永 裕己	1学期	1	2	33
		1年			
	医療経済 舟谷 文男	2学期	1	2	34
		1年			
	社会保障 工藤 一成	2学期	1	2	35
		1年			
	自治体経営 永津 美裕	2学期	1	2	36
		1年			
	産学連携と事業創造 城戸 宏史	2学期	2	2	37
		2年			
	アジア型経営 王 効平 他	2学期	2	2	38
		2年			
	NPO / NGO実践論 奥田 知志	2学期	2	2	39
		2年			
	基礎中国語 王 占華	1学期	1	2	40
		1年			
サービス・マネジメント 未定		1	2		
	1年				
中華圏の経営思想 古田 茂美	2学期	1	2	41	
	1年				
中華圏の貿易実務 前田 知	2学期	2	2	42	
	2年				
地域プロジェクト・マネジメント 網岡 健司	1学期	2	2	43	
	2年				
ビジネス中国語 森田 三恵子	2学期	1	2	44	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■エグゼクティブ科目	経営学特講 王 効平	集中	1	2	45
		1年			
■エグゼクティブ科目	企業法務とリスクマネジメント 吉浦 初音	2学期	1	2	46
		1年			
■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションI 王 効平	1学期	1	2	47
		1年			
	グループ・ディスカッションI 鳥取部 真己	1学期	1	2	48
		1年			
	グループ・ディスカッションI 城戸 宏史	1学期	1	2	49
		1年			
	グループ・ディスカッションI 越出 均	1学期	1	2	50
		1年			
	グループ・ディスカッションI 高橋 秀直	1学期	1	2	51
		1年			
	グループ・ディスカッションI 武田 寛	1学期	1	2	52
		1年			
	グループ・ディスカッションI 永津 美裕	1学期	1	2	53
		1年			
	グループ・ディスカッションI 任 章	1学期	1	2	54
		1年			
グループ・ディスカッションI 松永 裕己	1学期	1	2	55	
	1年				
グループ・ディスカッションII 王 効平	2学期	1	2	56	
	1年				
グループ・ディスカッションII 鳥取部 真己	2学期	1	2	57	
	1年				
グループ・ディスカッションII 城戸 宏史	2学期	1	2	58	
	1年				
グループ・ディスカッションII 越出 均	2学期	1	2	59	
	1年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションII	高橋 秀直	2学期	1	2	60
			1年			
	グループ・ディスカッションII	武田 寛	2学期	1	2	61
			1年			
	グループ・ディスカッションII	永津 美裕	2学期	1	2	62
			1年			
	グループ・ディスカッションII	任 章	2学期	1	2	63
			1年			
	グループ・ディスカッションII	松永 裕己	2学期	1	2	64
			1年			
	プロジェクト研究I	王 効平	1学期	2	2	65
			2年			
	プロジェクト研究I	森永 泰正	1学期	2	2	66
			2年			
	プロジェクト研究I	山口 徹也	1学期	2	2	67
			2年			
	プロジェクト研究I	吉浦 初音	1学期	2	2	68
			2年			
	プロジェクト研究I	鳥取部 真己	1学期	2	2	69
			2年			
プロジェクト研究I	城戸 宏史	1学期	2	2	70	
		2年				
プロジェクト研究I	越出 均	1学期	2	2	71	
		2年				
プロジェクト研究I	高橋 秀直	1学期	2	2	72	
		2年				
プロジェクト研究I	武田 寛	1学期	2	2	73	
		2年				
プロジェクト研究I	永津 美裕	1学期	2	2	74	
		2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■プロジェクト研究科目	プロジェクト研究I 任 章	1学期	2	2	75
		2年			
	プロジェクト研究I 松永 裕己	1学期	2	2	76
		2年			
	プロジェクト研究II 王 効平	2学期	2	2	77
		2年			
	プロジェクト研究II 森永 泰正	2学期	2	2	78
		2年			
	プロジェクト研究II 山口 徹也	2学期	2	2	79
		2年			
	プロジェクト研究II 吉浦 初音	2学期	2	2	80
		2年			
	プロジェクト研究II 鳥取部 真己	2学期	2	2	81
		2年			
	プロジェクト研究II 城戸 宏史	2学期	2	2	82
		2年			
	プロジェクト研究II 越出 均	2学期	2	2	83
		2年			
プロジェクト研究II 高橋 秀直	2学期	2	2	84	
	2年				
プロジェクト研究II 武田 寛	2学期	2	2	85	
	2年				
プロジェクト研究II 永津 美裕	2学期	2	2	86	
	2年				
プロジェクト研究II 任 章	2学期	2	2	87	
	2年				
プロジェクト研究II 松永 裕己	2学期	2	2	88	
	2年				

経営戦略【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 経営戦略の理解に必要な基礎的な専門知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 経営戦略に関わる課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 経営戦略の知識を用いて、企業経営に関する高い見識と変革する力を持ち続けることができる。
	地域リーダー態度	○ 経営戦略の知識を用いて、地域に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

経営戦略

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

経営戦略の理論と技法、その応用分析を中心的な内容とした講義を行う。理論とデータ加工によって、分析的に思考するスキルを高めながら戦略的思考力を高めることが本講義の目的である。本講義の到達目標は、経営戦略に関する基本的な理論や考え方を習得し、それらを用いて自分なりの視点から経営戦略を策定することができるようになることである。なお、講義の前半に事業戦略を、後半に全社戦略を扱う。

授業は、ケーススタディを基本とする。事前にリーディングを読み込んだ上で、戦略分析に関する小レポートなどを提出してもらい、受講生と討議する時間を設ける予定である。

教科書 /Textbooks

特に、指定せず、適宜資料を配布する。

(なお、ケースを用いる場合、そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥村昭博『経営戦略』日経文庫

石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略: 論理性・創造性と社会性の追求』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
- ②戦略とは何か?【定義, 戦略的な思考法】
- ③戦略とは何か?【戦略の担い手, ドメイン】
- ④事業戦略(業界の構造分析)【Five-Forces: 全体像, 既存企業間の対抗度】
- ⑤事業戦略(業界の構造分析)【新規参入の脅威, 売り手と買い手の交渉力】
- ⑥事業戦略(業界の構造分析)【代替品の脅威, まとめ】
- ⑦事業戦略(ゲーム論的な考え方)【価値相関図】
- ⑧事業戦略(ゲーム論的な考え方)【戦略的行動】
- ⑨事業戦略(企業の内部分析)【価値連鎖, 活動マップ, RBV】
- ⑩事業戦略(企業の内部分析)【学習アプローチ】
- ⑪全社戦略(垂直統合)【取引コスト】
- ⑫全社戦略(多角化の論理と種類)【多角化のタイプ】
- ⑬全社戦略(PPMとその応用)【PPM】
- ⑭全社戦略(戦略と組織)【組織は戦略に従う】
- ⑮まとめ

なお、授業の内容は、進捗状況や受講生の興味等に応じて、変更する可能性がある

経営戦略【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度30%、小レポート30%、期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営に関する知識があることが好ましいが、前提とはしない。
予習や復習には、かなりの時間が必要となる。
詳細は初回の講義にアナウンスする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング【夜】

担当者名 /Instructor 山口 徹也 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ マーケティングに関する基礎的理論を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ マーケティング上の課題を適切に把握し分析する力を習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業経営に関して、マーケティングの観点から変革する力を身につける。
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとしてマーケティングに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

マーケティング

授業の概要 /Course Description

ビジネスが「顧客」から「カネ」を受け取るにより成り立っているものであるため、「マーケティング」と「アカウントティング」は皆さんが身につけておかなければならない不可欠な要素と言えます。本講座は、実務経験があるものの、基礎理論的な面からマーケティングの俯瞰像を理解することを目指す学生を想定しています。特に、フィリップ・コトラーやピーター・ドラッカー等の著名な学者による普遍的な枠組みに照らしながら、中小企業の身近な事例を参考に臨床ケーススタディを行います。さらに、公認会計士・税理士の立場から事業計画数値、会計との関連性も議論し、皆さんに要約発表していただきます。

教科書 /Textbooks

講義ごとにレジユメを紙面配布（または、電子データ提供）いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

体系だった基本書及び統計解析等項目毎の専門書について、授業の最初にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション：マーケティング当講座自体のマーケティング
- ②ケーススタディ：マーケティングとは何か、目的
- ③基礎理論（1 / 3）：著名文献を要約理解【Philip Kotler】【Peter Ferdinand Drucker】
- ④基礎理論（2 / 3）：フレームワークと用語の理解【4P】【3C】【マーケティング3.0】
- ⑤基礎理論（3 / 3）：基本戦略と戦術【ブランディング】【CS】【BtoB】【BtoC】【O2O】
- ⑥統計解析、仮説構築の基礎【マーケティングリサーチ】【回帰分析】【相関係数】
- ⑦財務会計分析、投資意思決定【ROI】【事業評価】【広告宣伝費】【価格決定】
- ⑧バリューチェーンと管理会計【原価計算】【評価システム】【SPA】
- ⑨ケーススタディ：地元上場企業の環境分析【有価証券報告書】【テューデリジェンス】
- ⑩ケーススタディ：販売計画と事業戦略の組み立て方【期待値】【KPI】
- ⑪ケーススタディ：統計解析演習、デジタルマーケティング【行動観察】【ビッグデータ】
- ⑫競争戦略：ストーリー、コンセプトの組み立て方を理解する【ビジネスゲーム】【組織】
- ⑬広告戦略：メディア、ブランディングの活用手法を検討する【顧客接点】【AIDMA】
- ⑭グループプレゼン、A3一枚のエクゼクティブサマリーで起案する【事業計画】【稟議】
- ⑮起案の相互評価、講評、全回の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート..50%、ディスカッション..30%、小テスト等講義内総合評価..20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

マーケティング【夜】

履修上の注意 /Remarks

電卓、PC等計算機器の持参をお願いするコマがあります。
隔週2コマ連続のスケジュールです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

マーケティング理論の守備範囲は、ビジネスのほとんど全部という程、広いものです。
知ったふりよりも、脳や手が自然に動く活かせる武器を身につけられることを目指します。

キーワード /Keywords

「授業計画・内容」をご参照下さい。

アカウンティング【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 会計業務に関する実践的な知識を修得し課題に取り組むことができる。
	実践知識	○ 理論的な知識を実践可能な知識に落とし込むことができる。
技能	分析解決技能	○ 課題に対する観察能力と定量的な分析能力を習得している。
	実務技能	○ 実務的な簿記会計の、初歩的な技能を身につけることができる。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 経営倫理なかつく会計倫理の観点を得、粉飾のリスクを知る。
	企業変革態度	○ 会計処理とシステムの効率化、有効化促進のための視点を得る。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

アカウンティング

授業の概要 /Course Description

アカウンティングはビジネスの世界の共通言語である。本講座にあつてはビジネススクールの履修者に期待される水準の財務会計（すなわち、ステークホルダーに向けた外部報告会計）の基礎知識を学ぶ機会が提供される。まずは大学学部における財務諸表論と重なりあう論点を確認してゆくが、その後は財務諸表分析、さらには企業のディスクロージャー戦略にまで考察を加えてゆく。講義コンテンツにあつては、（英文）カタカナの会計用語のリテラシーがある程度まで得られるよう、デザインされている。本講座の到達目標は、受講後、修了者が、企業の財務報告とその制度に実際に興味を持ち、必要に応じ財務諸表に示された報告数値の意味を解釈、分析できるようになることである。

教科書 /Textbooks

『アカウンティングと財務諸表分析』（第8版、2015年3月刷）
（初回の教室にて無償配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロバート・アンソニー / レスリー・パールマン著 西山茂監訳 (2007年) 『アンソニー会計学入門』 東洋経済新報社 (推薦する基本書。ただし購入は任意であり、授業にては使用しない。)

アカウンティング【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主として以下のコンテンツを、各々モジュールとして積み上げて行く（但し、プレゼンテーションの時間をとる必要もあり、講義順は大きく変わることがある）。

①オリエンテーション：本講座の領域と目的、課題について。

【オリエンテーション】

②企業とアカウンティング：会計の役割と職能について（なぜ今、あえて「会計」を考えなければならないのか？）。

【会計の役割と職能】

③会計原則（GAAP）とは何か：特に米国基準（US-GAAP）と国際基準（IFRS）について。

【GAAP】

④バランスシートの機能について。

【B/S】

⑤P/Lの機能について。

【P/L】

⑥キャッシュフロー計算書の作成方法とその機能について。

【キャッシュフロー】

⑦簿記とアカウンティング・サイクルの一巡について。

【アカウンティング・サイクル】

⑧決算修正：アクルーアル処理とその会計倫理上の限界について。

【アクルーアル】 【アグレッシブ・アカウンティング】

⑨ディスクロージャー：脚注情報とMD&Aについて。

【ディスクロージャー】

⑩情報信頼性の担保方法：監査報告書について。

【監査】

⑪財務諸表分析の基礎的アプローチ方法について。

【財務諸表分析】

⑫年次報告と投資家向広報（IR）について。

【アニュアルレポート】

⑬隣接領域と意思決定会計への展望について。

【意思決定】

⑭MBA アカウンティングのWrap-Up.

【MBA】

⑯アドバンスト財務会計への展望

【財務会計】

...以上のモジュールを、受講者の意欲とニーズを量りつつ、ウェイト配分を微調整しながら講義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートそのものの質（15%程度）、プレゼンテーションの積極性やディスカッションに際しての貢献度（15%程度）、期末試験の成績（70%程度）、を適宜ウェイト付けし、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部生が学ぶ簿記論の授業等とはアプローチが全く異なります。特に簿記会計の知識経験がなくとも、授業内容は十分に理解できます。その他、必要なことはその都度、教室にて事前に連絡します。

配布プリント等の教材は、各回、毎回教室に持参してきてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は一方通行の講義をするのではなく、双方向のコミュニケーションをとりたいと考えています。そのためにも、履修者がテーマを選んで自発的にプレゼンテーションをする機会を設けたいと考えています。

キーワード /Keywords

上記の中でも特に、簿記、GAAP、IFRS、B/S、P/L、キャッシュフロー計算書。

ファイナンス【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	ファイナンスに関する専門知識を修得している。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	ファイナンスに関する定性的、定量的な分析能力を習得している。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	企業経営に関して、ファイナンスの観点から、変革する力を持っている。
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとしてファイナンスに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ファイナンス

授業の概要 /Course Description

①～⑥では、ファイナンスとは何かを学び、金融システムを概観し、ファイナンシャル・プランニングの意思決定について学ぶ。⑦～⑫では、ファイナンスに関する意思決定を家計や企業が行う際の応用について学ぶ。⑬～⑭では、コーポレートファイナンスのさまざまな問題（資本計画、資本構成など）についてさらに詳しく学ぶ。
到達目標は以下のとおり。①ファイナンスの基礎知識を身につけ、ファイナンシャル・プランニングの意思決定を理解する、②ファイナンス理論を理解し、企業や家計についてのファイナンスの意思決定ができるようになる、③コーポレートファイナンスの問題についてファイナンスの分析ができるようになる。

教科書 /Textbooks

ボデイ & マートン & クリートン 著、大前恵一朗 訳、(2011) 『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ブリーリー & マイヤーズ & アレン 著、藤井真理子・国枝繁樹 (監訳) (2014) 『コーポレート・ファイナンス (第10版) 上』、『同 下』日経BP社
- 砂川 & 川北 & 杉浦 著 (2008) 『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社
- 砂川 & 川北 & 杉浦 & 佐藤 著 (2013) 『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社

ファイナンス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①ファイナンスとは何か(1) イントロダクション
【ファイナンスの定義】【ファイナンスを学ぶ目的】【家計の意思決定】【企業の意思決定】【企業組織の形態】
- ②ファイナンスとは何か(2) 企業経営の目標
【所有と経営の分離】【企業経営の目標】【企業買収】【企業内ファイナンス・スペシャリストの役割】
- ③金融システム(1)
【金融システム】【資金循環】【金融仲介の機能】【金融の発達と「神の見えざる手」】【金融市場】
- ④金融システム(2)
【市場利子率】【金融仲介機関】【金融インフラと規制】【政府・準公的機関】
- ⑤ファイナンシャル・プランニング(1)
【ファイナンシャル・プランニングのプロセス】【ファイナンシャル・プランニング・モデルの設計】
- ⑥ファイナンシャル・プランニング(2)
【成長と外部資金調達との必要性】【運転資本管理】【流動性と現金計画】
- ⑦貨幣の時間的価値(1)
【複利計算】【現在価値と割引】【割引現在価値による意思決定】【複数のキャッシュフロー】
- ⑧貨幣の時間的価値(2)
【年金(アニュイティ)】【外国為替レートと貨幣の時間的価値】【インフレーションとDCF分析】【税金と投資の意思決定】
- ⑨ライフサイクル・ファイナンシャル・プランニング(1)
【ライフサイクル・モデルにおける貯蓄】
- ⑩ライフサイクル・ファイナンシャル・プランニング(2)
【社会保障】【税法上の特典の利用】【大学院への進学】【借りるべきか、買うべきか】
- ⑪資本計画の基礎(1)
【プロジェクト分析】【NPV投資ルール】【プロジェクトのキャッシュフロー予測】【資本コスト】
- ⑫資本計画の基礎(2)
【感応度分析】【コスト削減プロジェクトの分析】【異なった期間のプロジェクト】【相互に排他的なプロジェクトのランキング】
- ⑬資本構成(1)
【内部資金調達と外部資金調達】【株式による資金調達】【負債による資金調達】【資本構成の中立性】
- ⑭資本構成(2)
【コストの削減】【利益相反】【ファイナンスに関する意思決定の実際】【レバレッジされた投資の評価】
- ⑮まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度 30パーセント
課題の提出 70パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本経済新聞を購読することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

組織とイノベーション【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 組織マネジメントの実践に必要な基礎的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 組織での人間行動を分析するための基礎的リテラシーを習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ イノベーターとしてのリーダーシップのあり方を理解する。
	地域リーダー態度	○ リーダーシップの理論的な枠組みを修得する。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

組織とイノベーション

授業の概要 /Course Description

本講義では、組織とイノベーションにまつわる理論・枠組みを学ぶ。コースの前半ではミクロ組織論を中心とした理論基盤の学習を行う。特に、ミクロ組織分析については、統計的な分析手法の基礎を実習する。コース後半では、マクロ組織論と、企業の変革や新商品創出にまつわるイノベーション・マネジメントについての学習を行う。各講義回では、ミニ・ケースや雑誌・新聞記事を読み、あるいは映像を見て事例分析やケース・ディスカッションを行い、基礎的な諸理論の理解と実践力の向上を図る。

本講義の到達目標は、組織マネジメントとイノベーション・マネジメントを実践するうえでの基礎的な知識を習得することである。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布するが、ロビンズ『組織行動のマネジメント』を教科書に準じた参考書として扱う。なお、ケースを用いる場合、そのケース代金（1冊千数百円）が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ロビンズ著,高木晴夫監訳『組織行動のマネジメント(新版)』ダイヤモンド社,2009年.
- ・ 金井壽宏『経営組織』日経文庫,1999年.
- ・ 金井壽宏『リーダーシップ入門』日経文庫,2005年.
- ・ 沼上幹『組織デザイン』日経文庫,2004.
- ・ 延岡健太郎『MOT"技術経営"入門』日本経済新聞社, 2006年.
- ・ 近能善範・高井文子『イノベーション・マネジメント』新世社,2011年.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 個人と集団 (1) 【合理的な意思決定】
- 2回 個人と集団 (2) 【公正性】
- 3回 個人の特性 (1) 【性格特性、Big5】
- 4回 個人の特性 (2) 【適性検査】
- 5回 モチベーション (1) 【モチベーション、欲求階層説】
- 6回 モチベーション (2) 【期待理論、目標設定理論】
- 7回 リーダーシップ (1) 【リーダーシップ、基本二次元】
- 8回 リーダーシップ (2) 【チーム】
- 9回 マクロ組織 (1) 【機能別組織、事業部制】
- 10回 マクロ組織 (2) 【未来型組織】
- 11回 イノベーション・マネジメント (1) 【組織能力、コア技術】
- 12回 イノベーション・マネジメント (2) 【創造性】
- 13回 マクロ組織 (3) 【企業文化】
- 14回 リーダーシップ (3) 【変革型リーダーシップ】
- 15回 組織のイノベーション 【組織変革】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度40%、小レポート30%、期末レポート30%

組織とイノベーション【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習や復習にはかなりの時間が必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント入門【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 企業や組織のマネジメントの理解に必要な基礎的な専門知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ マネジメントに関わる課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 市民としての社会的責任感や倫理観を維持することができる。
	企業変革態度	○ マネジメントの知識を用いて企業に関する高い見識と変革する力を維持することができる。
	地域リーダー態度	○ マネジメントに関する知識を用いて地域に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

マネジメント入門

授業の概要 /Course Description

本講義は、経営学の初学者を対象に、経営学の基礎的な知識を提供すること、企業あるいは組織というものの存在により関心を払ってもらうようになってもらうことが目的である。さらに、この講義を通じて、必修科目やアドバンス科目、エグゼクティブ科目の理解が深まるようになることも目的である。本講義の到達目標は、経営学の基礎的な知識を習得することである。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、適宜資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

基本的には必修科目の教科書・参考書に準じる。
 それ以外については、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション：企業経営の全体像
 - ②企業経営の全体像：会社は誰のものか【株主主権、従業員主権、ステイクホルダー】
 - ③企業経営の全体像：経営者の規律付け【コーポレートガバナンス、経営者の姿】
 - ④経営管理論の系譜：【テイラー、ファヨール、フォード】
 - ⑤経営組織(1)：組織とは何か？【多様な組織観】
 - ⑥経営組織(2)：組織を動かす基本原理【官僚制、分業】
 - ⑦経営組織(3)：組織デザイン【職能制組織、事業部制組織】
 - ⑧経営組織(4)：組織改革【分権と集権、事業プロセス】
 - ⑨経営組織(5)：ケース
 - ⑩マーケティング(1)：セグメンテーション【STP】
 - ⑪マーケティング(2)：マーケティング・ミックス【4P】
 - ⑫マーケティング(3)：製品開発コンセプト【コンセプト、顧客価値】
 - ⑬マーケティング(4)：ブランド・関係性の管理【ロイヤリティ、リレーションシップ】
 - ⑭マーケティング(5)：ケース
 - ⑮総合討議
- なお、受講生の理解度や関心に応じて、内容は適宜変更される可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への貢献度..30%、小レポート..30%、期末レポート(テスト)..40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

マネジメント入門【夜】

履修上の注意 /Remarks

特に前提となる知識は必要としない。

ケーススタディの形式を用いる予定である。そのため事前のリーディング（ケース及び教科書的なもの）を読み込んだ上で、課題について考えてきてもらい、それらを中心に議論しながら経営に対する考え方などに対する理解を深める予定である。

経営学の初学者向けの講義であるため、経済・経営系の学部を卒業した者、経営に関する様々なセミナー等に参加したことのある者、経営系の書籍を多数読んだ者については、履修する必要はない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

内容が盛りだくさんのため、進度等が早いと思われるが、食らい付いてもらいたい。

そのためには予習や復習にかなりの時間が必要になる。

また、授業を含めて、常に自分で考えることが求められる。

キーワード /Keywords

経済学入門【夜】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科, 後藤 宇生 / 経済学科
藤井 敦 / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 経済を理解するために必要な経済学の基礎知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 習得した知識を利用して、経済の諸問題を発見し解決する能力を身に付ける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 経済学の学習を通じて、経済人としての社会的倫理観を確認する。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

経済学入門

授業の概要 /Course Description

消費者・企業・政府の経済活動や一国の経済状況を分析するために必要な経済学の基礎理論(マクロ経済学とミクロ経済学)を学習する。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 マクロ経済学①【GDP】【産業連関表】
- 第3回 マクロ経済学②【名目と実質】
- 第4回 マクロ経済学③【経済成長率】【年率換算】
- 第5回 マクロ経済学④【貨幣】【マネーサプライ】
- 第6回 マクロ経済学⑤【財政】【税金】
- 第7回 マクロ経済学⑥【社会保障】
- 第8回 マクロ経済学中間まとめ
- 第9回 ミクロ経済学①【需要と供給】【均衡価格】
- 第10回 ミクロ経済学②【財・サービスの分類】
- 第11回 ミクロ経済学③【需要の価格弾力性】
- 第12回 ミクロ経済学④【企業の経済活動】【供給曲線】
- 第13回 ミクロ経済学⑤【消費者の経済活動】【需要曲線】
- 第14回 ミクロ経済学⑥【余剰分析】
- 第15回 ミクロ経済学中間まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の講義への取り組み・・・30%、小テスト・・・20%、期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習する必要はないが、理論的な話が多いので、毎回復習を必ずして理解を深めておくこと。
わからない点は講義に必ず質問すること。

経済学入門 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング戦略【夜】

担当者名 /Instructor 岩熊 正道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 実践的なマーケティング活動を理解し、使いこなすための知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	◎ 課題に応じたマーケティング戦略を構築することができる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 経営上の課題を発見し、マーケティング活動によって解決する力を修得する。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

マーケティング戦略

授業の概要 /Course Description

「マーケティング戦略」は経営戦略の中心を占めており、組織の理念・目的、トップの哲学、人生観、世界観によって規定され、環境への適応が強く求められるものと認識している。受講済みのベーシック科目「マーケティング」の知識を前提に、個別組織（企業、非営利法人や自治体）のユニークな「マーケティング戦略事例を交えて議論していく。FACo事業（クールジャパンをビジネスに）の事例を紹介し、「常若（とこわか）」を意識した新しいマーケティングを学習する。

集中講義による開講であるため、90分・15コマの講義を各コマ自己完結の形ではなく、以下4つの部分に区切って進めていく：①基本的枠組み、②自らの提案、③企業・自治体の事例紹介、④FACoの紹介。講義の進行に当たっては、受講者との討論方式を一部取り入れる予定。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

マーケティング戦略【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① メディア（報道放送業）と「マーケティング」との接点（自己紹介を兼ねて）
【メディアにとっての市場】【メディア事業局の業務内容】【TVマーケティング】【メディア営業】
- ② マーケティング戦略の基本的枠組み
第4次産業革命を見据えた
【セグメンテーション】【ターゲティング】【ポジショニング】【マーケティング・ミックス】
デジタル化第2の波 IoT
- ③ 戦略立案に用いられる代表的な技法
【SWOT分析】【3C】【4P】【知識と情報の違い】ほか
- ④ マーケティング（戦略）の成否と上層経営管理職のあり方
【理念・哲学】【人生観・世界観】【情熱・拘り】
- ⑤ 「常若」、新しいマーケティング
HOWマーケティングからWHYマーケティング
【時流・時代の変化への順応】【感情と理性】【リアルとヴァーチャル】【創造力と妄想力】
- ⑥ 「常若」、新しいマーケティングII
【企画力、プロデュース力】【無形から有形にする】【プレゼンテーション力】
- ⑦ 元気企業の事例学習I：A社
【B to B】【グローバル範囲に及ぶSCM】
- ⑧ 元気企業の事例学習II：B社
【B to C】
- ⑨ 元気企業の事例学習III：C社
【B to B to C、繋げる】【元気・健康・美をビジネスに】
- ⑩ 地方都市のブランディング
【福岡市の取り組み→アジアのリーダー都市?!】
- ⑪ 地方創生のブランディング
【北九州市の売り→世界の環境首都?!】
- ⑫ FACo事業における「マーケティング」I
【クールジャパンをビジネスに】【協賛者開拓】
日本発標準「グローバルスタンダードからニッポンスタンダード」
「コネクトジャパン」
- ⑬ FACo事業における「マーケティング」II
【アジアを代表するコレクションへ】【日本のコンテンツでアジアへ】
- ⑭ すべてのHOWはWHYのために
【WHY国家日本を目指す】
- ⑮ 総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート50%、討論への参加度・貢献度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

未配布の放映映像を撮影・録音することとはご遠慮ください

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の質問を歓迎します

キーワード /Keywords

知識マネジメント【夜】

担当者名 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	知識変換モデルを修得する。
	実践知識	○	「知識共有と創造」に関する場の設計を理解する。
技能	分析解決技能	○	場の動態分析と活性化スキルを習得する。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	自社における知識創造経営の実践を実現する力を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

知識マネジメント

授業の概要 /Course Description

本講義は知識の共有・活用を組織的に展開するナレッジマネジメントと共に、知識をイノベーションの源泉とする知識創造について検討を加え、知識社会の経営、管理について習得することを目指す。有益な知識を提供し合い、相互に活用することで知識生産性の向上を志向するマネジメントを検討しながら、他方ではイノベーションに必要な新しい知識の創造についても取り上げ、新規事業やビジネスモデルの創出、製品・技術の開発などに不可欠な「場」の議論、ワークスタイルの分析・設計などを通して知識経営の実践力を高め、知識社会のリーダー像を明らかにする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

越出均『ナレッジ・クリエイター』、創成社
 國領・野中・片岡『ネットワーク社会の知識経営』、NTT出版
 野中・竹内『知識創造企業』、東洋経済新報社

知識マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 知識社会の到来
【収穫逓増のプラットフォーム】
- ② 知識ネットワーク
【企業の実践コミュニティ】
- ③ 知識経営の基礎
【知識マネジメントの要諦】
- ④ 知識創造経営
【SECIモデル】
- ⑤ 知識経営の実際
【ゲストに学ぶ知識経営】
- ⑥ 知識イノベーション
【異なる知のマネジメント】
- ⑦ 知のコラボレーション
【顧客とのリレーションシップと価値創出】
- ⑧ 失敗の「知」
【体験的学習の生かし方】
- ⑨ 「知」の伝承
【場の共有化と技能習得】
- ⑩ 「知」のデジタル化
【技術思考による業務改革】
- ⑪ 営業のナレッジ共有とスキルアップ
【可視化のマネジメント】
- ⑫ 知識社会のリーダーシップ
【CKOの役割】
- ⑬ 専門的知識
【デザイナーと開発者のマネジメント】
- ⑭ 地域の「知」をマネジメントする
【商店街・地場産業の集積知、知的触発】
- ⑮ 自社における知識ビジネスと知識経営についての考察、発表

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションに対する貢献度(2割)と課題に対するレポート評価(8割)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

パブリック・マネジメント【夜】

担当者名 津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	公共セクターの特性と仕組み、制度の専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	公共セクターの機能、役割などについて、事例などを通じて調査分析できる。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	公共性の意義を十分理解し、公的業務に従事する職業倫理を有する。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	公的課題の解決に積極的に取り組むリーダーシップを身につける。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

パブリック・マネジメント

授業の概要 /Course Description

国、地方ともに財政難に直面するわが国では、従来の行政を中心とする公共経営の限界が明らかになりつつあり、90年代後半から新たな行政手法としてNPM（ニュー・パブリック・マネジメント）の導入が推進されている。市場の活用、顧客主義、現場への分権などの考え方に基づき行政の経済性や効率性を重視するNPMは一定の成果をあげているが、サービスの受け手ではなく主権者としての市民に着目して、NPOなどの市民セクターによる新しい公共の担い手など多元的な主体による公共経営やガバナンスのあり方が問われている。そのため、国や地方自治体、医療・教育等の公益団体、企業の公共的役割、市民セクターのあり方を幅広く学ぶ。そしてNPMの理論や特性、行財政改革手法、公共の担い手としての責務、職業倫理等を学び、公益団体、企業まで含めた公共経営やNPMを超えた福祉や教育の分野等での市民セクターとの公民域協働による新しい公共空間の創造やソーシャルキャピタル等について、学生の皆さんとの討論を通じて今後の展望を探る。

教科書 /Textbooks

授業の際に、適宜必要な資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『非営利組織の経営』（1991年）ドラッカー ダイアモンド社
『日本の公共経営』（2014年）外山公美等 北樹出版
『非営利法人経営論』（2014年）岩崎保道 大学教育出版

パブリック・マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① パブリックマネジメント総論Ⅰ
【パブリックセクターの特性、歴史的経緯、社会的変化、ソーシャルキャピタルの考え方】
- ② パブリックマネジメント総論Ⅱ
【公共セクターの役割、公共セクターの職業倫理】
- ③ パブリックマネジメント総論Ⅲ
【NPMの理論背景と基本的考え方】
- ④ 課題議論
【学生による発表、論議】
- ⑤ 公益事業（企業等）
【特性、医療、教育等】
- ⑥ 公益法人・NPO制度
【NPOなど市民セクター】
- ⑦ パブリック組織の組織・人材マネジメント
【わが国の人事制度の特徴】
- ⑧ パブリック組織の財政の仕組みⅠ
【国・地方の予算・決算制度】
- ⑨ パブリック組織の財政の仕組みⅡ
【国・地方の財政分析】
- ⑩ パブリックサービスの改革手法Ⅰ
【PPP】【民間委託】
- ⑪ パブリックサービスの改革手法Ⅱ
【独立行政法人】【指定管理者】
- ⑫ パブリックサービスの改革手法Ⅲ
【第三セクター・外郭団体】
- ⑬ パブリックサービスの改革手法Ⅳ
【PFI】
- ⑭ 課題議論・ゲストスピーカー
【特定テーマによる議論】
- ⑮ まとめ
【多様な主体による新しい公共、ソーシャルキャピタルの構築】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、課題に対するプレゼンテーション（70%）、授業の状況（質疑、意見、発表等30%）をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の際に必要な場合は、その都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生の皆さんの活発な議論や質疑を期待します。

キーワード /Keywords

国際ビジネス・スキル【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ ビジネスに必要な英語のスキルを習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 英語でビジネスプレゼンテーションができる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協同態度	○ 国際的な環境において相互理解し、コミュニケーションが行える力を修得する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

国際ビジネス・スキル

授業の概要 /Course Description

国際ビジネス・スキル offers students the opportunity to develop the skills necessary to make successful business presentations in an international environment. While the emphasis will be on technique a strong focus on enhancing English-language skills will be maintained throughout. It is hoped that this course will enable students to make professional, persuasive and entertaining business presentations which feature the usage of accurate and appropriate English.

教科書 /Textbooks

Nancy Duarte, HBR Guide to Persuasive Presentations (Harvard Business Review Guides), (Harvard Business School Press, 2012)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Secondary Reading will be discussed in the Introduction.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Introduction
Audience
2回 Understand the Audience's Power / Segment the Audience
3回 Define How You'll Change the Audience / Find Common Ground
Message
4回 Define Your Big Idea / Anticipate Resistance
5回 Build an Effective Call to Action / Balance Analytical and Emotional Appeal
Story
6回 Apply Storytelling Principles / Create a Solid Structure
7回 Beginnings, Middles and Ends / Use Metaphors as Your Glue
Media
8回 Choose the Right Vehicle for Your Message / Determine the Right Length for Your Presentation
9回 Persuade Beyond the Stage / Share the Stage
Slides
10回 Think Like a Designer / Choose the Right Type of Slide
11回 Clarify the Data / Turn Words into Diagrams
Delivery
12回 Rehearse Your Material Well / Communicate with Your Voice
13回 Get the Most Out of Your Q and A / Student Presentations 1
Impact
14回 Spread Your Ideas with Social Media / Student Presentations 2
15回 Review

国際ビジネス・スキル【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of homework assignments - 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Preparation tasks will be set by the instructor whenever appropriate.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロジスティクス【夜】

担当者名 齊藤 淳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	◎ バリュチェーン、サプライチェーンに関する基本的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 効率のかつ創造的なバリュチェーンを組み立てる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 自社の課題をバリュチェーンの視点から改善する能力を修得する。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	○ 国際的な視点からバリュチェーンを組み立てる力を修得する。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ロジスティクス

授業の概要 /Course Description

グローバルビジネスにおいて、その成否はサプライチェーンの効果的・独創的な構築がカギを握る、とされています。また、意識しているかどうかに関わらず、我々のビジネスの中に「全体最適」「情報の一元化」「リードタイム」「在庫の見える化」などサプライチェーンマネジメント（SCM）の概念が浸透してきており、実際に、中小企業含めて多くの企業がSCMの中に組み込まれています。

そこで、グローバルビジネス全体を俯瞰した上で、グローバル企業はどのようなバリュチェーン、サプライチェーンを構築し、競争力を生み出しているのか、また、日本のものづくりの強みである生産システムとそれを起点としたSCMの具体的事例から、ビジネス競争力を高めるSCMの基本概念について理解していきます。

授業の到達目標は下記とします。

- ① SCMの基本概念を学び、自事業の競争力を高める。
- ② 日本発グローバルビジネスの強みとなるサプライチェーンを自ら構築する。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dr.マイケル・E・ポーターの競争戦略の書物等
(授業開始時に説明します)

ロジスティクス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① SCM概論
【狙いと効果】【日本におけるSCM再構築の契機】【SCMが着目された事例】
- ② グローバル企業のマネジメント(1)
【多国籍企業とグローバル企業】【経済のグローバル化と国家】【日本の強み】
- ③ グローバル企業のマネジメント(2)
【グローバルマネジメント再構築の事例紹介：(自動車業界)リバイバルプラン】
- ④ グローバル企業とSCM
【バリューチェーンとサプライチェーン】【競争の戦略】
- ⑤ グローバル人材
【グローバル競争の構図】【グローバル人材とは?】(ディスカッション)
- ⑥ グローバル企業における人材マネジメント
【人事・報酬システム】【組織】【クロスファンクショナル】【ダイバーシティー】
- ⑦ ものづくりを起点としたSCM(1)
【同期生産システム ~ 販売計画・受注から納品まで】
- ⑧ ものづくりを起点としたSCM(2)
【在庫管理】【見える化】【標準化とPDCA】
- ⑨ ものづくりを起点としたSCM(3)
【グローバル調達】
- ⑩ ものづくりを起点としたSCM(4)
【ロジスティクス】【国境を越えたシームレス物流】
- ⑪ SCM事例研究(1)：受講メンバー研究の発表と論議
(SCM先進事例及び自事業関連事例)
- ⑫ SCM事例研究(2)：受講メンバー研究の発表と論議
(SCM先進事例及び自事業関連事例)
- ⑬ SCMの危機管理
【リーマンショック・東日本大震災】【Business continuity plan】
- ⑭ 各メンバーによるプレゼンテーションとディスカッション
下記テーマいずれか
1) SCMの基本概念(在庫適正化、リードタイム短縮など)の自事業への適用
2) 日本発グローバルビジネスのSCM構築提案
- ⑮ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート... 50% ディスカッションへの参加度・貢献度... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

SCM事例研究では、受講者それぞれが調査・研究した事例をもとに、全員でディスカッションを行います。また、最後にSCMの自事業への適用、新規事業(SCM)構築提案のいずれかをそれぞれに行っていただきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事業戦略としてのSCMについて理解を深めることを目指していることから、講義の前半はグローバル企業の競争戦略に重きを置いていることを予め承知願います。

キーワード /Keywords

サプライチェーンマネジメント、バリューチェーン、グローバル人材

問題解決スキル【夜】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 問題解決に必要なとされる基本的な思考方法および分析ツールを習得する。
技能	分析解決技能	○ 問題解決に必要なとされる分析ツールを事例を通じて応用できる。
	実務技能	○ 問題解決のためのツールを使いこなす力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

問題解決スキル

授業の概要 /Course Description

ビジネスに必要なスキルは、プレゼンテーション、ライティング、コミュニケーションなど多岐にわたるが、本講義では、問題解決に必要なとされる基本的な思考方法、分析ツールを紹介し、ケーススタディを通して解決スキルを習得してもらうことに主眼を置いている。

前半は、システム分析の視点から授業を構成する。後半は、適宜、演習問題を課すことによって理解力を高め、スキルの向上をめざす。

具体的には、KJ法、オペレーションズ・リサーチ、ビジネスモデル、TOCなど、簡単なものからパソコンを利用したいいくつかの分析手法を取り上げる。

教科書 /Textbooks

プリントまたは冊子を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

平山克己(2008年)『あほ賢システムのおはなし』SCC
 刀根 芳(2001年)『オペレーションズ・リサーチ読本』日本評論社
 柏木吉基(2006年)『Excelで学ぶ意思決定論』Ohmsha
 エリヤフゴールドラット著、三本木亮訳(2001年)『ザ・ゴール』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義方式に加え、グループワーク、パソコン演習、ケース・スタディを組み入れることで知識の理解を深め、かつ思考能力を涵養する。各講義内容は以下の通り

- 1回 問題解決手法とは 【ブレンストーミング】
- 2回 KJ法について【KJ法】
- 3回 KJ法演習【ラベル作り】
- 4回 KJ法演習【グルーピング】
- 5回表計算ソフトによる図解化法 【グラフ化】【統計的分析】
- 6回 表計算ソフトによる図解化法演習 【グラフ化】【統計的分析】
- 7回 オペレーションズ・リサーチとは 【PERT】【アクティビティ】【プロジェクト管理】
- 8回 オペレーションズ・リサーチ演習 【最適化】【線形計画法】
- 9回 ビジネスモデルとは 【IDEF】【アクティビティ】
- 10回 ビジネスモデル演習 【Activity Based Costing】【管理会計】
- 11回 制約条件の理論 (Theory Of Constraint)とは【制約条件】【ボトルネック】【ドラムバッファロープ】
- 12回 制約条件の理論 (Theory Of Constraint)演習
- 13～15回 演習 Reading Assignment発表 【ケース・スタディ】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況・・・30% 課題・・・40% 討議の貢献度・・・30%

問題解決スキル 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持参してもらう場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チーム・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 山口 裕幸 / Hiroyuki Yamaguchi / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	チームマネジメントに関する専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能	○	事業立ち上げに必要なチームを編成しまとめる力を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	課題解決に必要なチームの特性を理解し、チームをつくる力を修得する。
	地域リーダー態度	○	優れたチームマネジメントを実践するリーダーシップを修得する。
	国際協調態度		
※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		チーム・マネジメント	
※ 2013年度以降入学生が対象です。			

授業の概要 /Course Description

この授業では、チームを構成するメンバーが、活動を通して相互作用する過程でチームに備わってくる（創発されてくる）特性としてチームワークや、チーム・コンピテンシー、チーム・レジリエンスをとらえ、それらのチームレベルの特性を、より高品質なものへと育み、強化するための働きかけを考える視点から、効果的なチーム・マネジメントについて論じていく。

グループ・ダイナミクス、組織行動論、戦略的人的資源管理論、複雑系科学、進化論を学術的論考の基盤としつつ、組織現場で発生している現実問題を題材として取り上げながら、いかなるマネジメントが効果的であるのかを、マイクロレベル（＝個人の心理プロセスや行動特性）と、それらが相互作用することでできあがり、また変容していくマクロレベル（チーム・パフォーマンス、チーム規範、チームワーク等）の相互作用ダイナミズムに注目しながら、講義を進めていく。具体的に取り上げるトピックは、次のような構成を考えている。

1. チーム・マネジメントのターゲットは何か
2. チームの特性と類型を理解する
3. チーム発達論
4. チームワークとは何か
5. メンバー個々のチームワーク能力
6. チーム・コンピテンシーを考える
7. チーム・レジリエンスの重要性
8. チーム・デザイン論
9. チーム・ビルディング論
10. チーム・マネジメントとリーダーシップ

教科書 /Textbooks

「チームワークの心理学 - よりよい集団づくりをめざして -」山口裕幸(著)サイエンス社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学』山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久(著) 有斐閣アルマ
 『<先取り>指向の組織心理学 - プロアクティブ行動と組織』古川久敬・山口裕幸(編著)有斐閣

チーム・マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、集中講義形式での開講を予定しており、第1日(金・2コマ)+第2日(土・6コマ)+第3日(金・2コマ)+第4日(土・5コマ)で構成を考えている。また、講義を基盤とするが、課題を準備して、自らの意見を考えたり、受講生どうして議論したりする、演習形式も適宜、取り入れる。

<1日目:2コマ(講義を基盤に進めます)>

- ① チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史(1)【機械組織観、ホーソン研究、人間性心理学】
- ② チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史(2)【自己組織性、組織改革、チームワーク】

<2日目:6コマ(講義とグループワーク)>

- ③ チーム・マネジメントのターゲットを同定する【組織規範、組織コミュニケーション】
- ④ チームとは何か、その特性と類型【チーム、タスクフォース、クルー】
- ⑤ チーム発達論【組織の硬直化現象、ライフサイクル理論、】
- ⑥ メンバーの相互作用ダイナミクスとチーム・コミュニケーションの特性理解(講義)【場の理論、ネットワーク】
- ⑦ メンバーの相互作用ダイナミクスとチーム・コミュニケーションの特性理解(課題を用いた演習)
- ⑧ チームワークとは何か(講義)【モニタリング、相互調整、相互支援、相互指摘】

<3日目:2コマ(講義)>

- ⑨ チーム・コンピテンシーとチーム・レジリエンスを育むには(課題を用いた演習)
- ⑩ チーム・コンピテンシーとチーム・レジリエンスを育むには(講義と議論)【コンピテンシー、レジリエンス、失敗学】

<4日目:5コマ(講義と演習)>

- ⑪ チーム・パフォーマンスを阻害するチーム・ダイナミクスの理解【プロセス・ロス、他】
- ⑫ 優れたチーム・コミュニケーションを育むための条件【共有メンタルモデル、暗黙の強調】
- ⑬ チーム・デザインとチーム・ビルディング【介入型チーム育成、自律管理型チーム】
- ⑭ 優れたチーム・マネジメントを実現するリーダーシップを考える(課題を用いた演習)
- ⑮ 優れたチーム・マネジメントを実現するリーダーシップを考える(講義)【目標管理、影響力、ミッション、ビジョン】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の途中で課される課題への解答の精度(25%)、課題や議論への参加態度(25%)、レポートの品質(50%)を総合して成績を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営【夜】

担当者名 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	国際経営の理解に必要な理論的専門知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	国際経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその分析と解決策の提示ができる。
	実務技能		
	新規事業技能	△	国際的に新事業を展開するに必要とされる技能を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	国際経営を遂行するにあたって必要とされる挑戦的姿勢と変革する能力を修得する。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	国際経営を遂行するにあたって必要とされる相互理解の態度と協調的姿勢を修得する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

国際経営

授業の概要 /Course Description

国際経営（経営のグローバル化）に関する広い視野と深い洞察力、特に企業の国際事業戦略に関する専門知識やノウハウの取得を目的とする。講義内容は大きく3部構成とする。第1部では国際経営の基礎概念、理論を概説した上、関係統計を通じて経営国際化進展の全体像を掴む。第2部では、日本企業の経営国際化(幅広い国際事業提携やビジネスのグローバル展開を含むもの)の特徴、諸課題について学ぶ。第3部ではケーススタディを行い、討論を通じて全体内容に対する理解を深めていく。

毎年受講生のバックグラウンドに大きなばらつきがあることに鑑み、初講義時にアンケートによる確認を行った上、配布資料の用意やペースの調整などで工夫を凝らせていく。

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

亀井正義著 『企業国際化の理論』 中央経済社
湯沢威他著 『国際競争力の経営史』 有斐閣
吉原英樹編著 『国際経営論への招待』 ミネルブア書房
経済産業省編 『通商白書』 (各年版)
JETRO編 『世界貿易投資白書』 (各年版)

国際経営【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション：講義の狙い、内容構成と進め方の説明
第2回	「経営国際化」、「多国籍企業」とは 【企業の国籍】
第3回	多国籍企業の誕生、発展段階 【株式会社誕生起源説】 【6段階説】 【4類型化】
第4回	企業の多国籍化の誘因 【貿易摩擦回避型】 【原価削減型】 【PLC説】 【資本余剰説】
第5回	多国籍企業の所有戦略 【持ち分型】 【非持ち分型】 【技術供与契約方式】
第6回	基本統計の解説 【国際収支ベース】 【対外・対内直接投資】 【グローバル企業ランキング】
第7回	多国籍企業の租税戦略 【RHQ】 【タックスヘイブン】 【移転価格】
第8回	涉外租税規制強化の動向 【タックスヘイブン】 【移転価格】
第9回	日系企業経営現地化の諸課題 【企業内分業】 【国内志向】 【現地志向】
第10回	日系企業に関する現地調査報告
第11回	ケーススタディⅠ(日系製造業多国籍企業に関するゲスト講義)
第12回	グループワーク・総合討議
第13回	ケーススタディⅡ(東アジア財閥系多国籍企業：現地調査を踏まえて)
第14回	グループワーク・総合討議
第15回	レポート講評

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート	50%
討論への貢献度	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

紹介資料、配布資料を熟読すること
講義中に積極的に質疑・発言する心掛けを！

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題提出時間の厳守

キーワード /Keywords

地域づくり総論【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	地域が直面する問題や課題についてマネジメント理論を踏まえた議論ができる。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能	○	地域の問題や課題の解決に向けた構想を各種の連携を踏まえて具体的に提案できる。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域リーダーの自覚のもと、地域の諸問題に対して幅広い視点で提案できる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

地域づくり総論

授業の概要 /Course Description

わが国は既に人口減社会に突入しており、経済活力の低下が深刻化しつつある。とりわけ、地方における経済活力の低下は極めて深刻な状況となっている。そのため、これまで以上に地域づくりや地域産業振興への関心が高まっている。しかしながら、従来の行政中心の手法には限界があり、行政の枠を超えたマネジメントのもとでの地域づくりや地域産業振興が求められている。

そこで本講義では、行政の枠を超えた地域づくりのケーススタディ等により、様々な担い手によって実行される地域づくりに必要な戦略やチームマネジメントについて学ぶものとする。なお、本講義の到達目標は、①地域づくりの現場における課題を具体的に抽出できること、②地域活性化につながる地域資源を具体的に発掘できること、③地域づくりを担う具体的なチームの体制を提案できること、である。

教科書 /Textbooks

その都度、指示します（基本はプリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

P.F.ドラッカー「非営利組織の経営」ダイヤモンド社
P.F.ドラッカー「イノベーションと企業家精神」ダイヤモンド社
山崎亨「コミュニティデザインの時代」中公新書
広井良典「コミュニティを問いなおす」ちくま新書
新雅史「商店街はなぜ滅びるのか」光文社新書

地域づくり総論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①、②地域を景観とデータから読み取る
【地域の現状の確認：高齢化・都心空洞化・人口減少、消費低迷、下流化】
【ディスカッション：10年後の地域のかたち、すでに起こった未来】
- ③、④都心機能の変遷と新しい潮流
【都心の機能の変遷：中心市街地、オフィス機能、小売機能、サービス機能、交流機能】
【新しい潮流：深夜化・24時間化、生活拠点化、エキマチ化、まちなか居住】
- ⑤、⑥地域コミュニティの限界と可能性
【地域コミュニティとは？公/共/私、地域/国家/地球、外部マネジメント、人的ネットワーク】
【ディスカッション：地域コミュニティの未来 / 地域づくりのために誰とつながるべきか？ / 地域コミュニティの拠り所とは？】
- ⑦、⑧地域づくりのケーススタディ
【中心市街地の活性化：黒崎地区の実態（商店街、再開発、再都市化、コミュニティデザイン）】
- ⑨、⑩地域づくりと合意形成（八幡地区を事例を中心に）
【市街地再開発、再開発組合、都市計画、コミュニティ、合意形成】
【ディスカッション：どのように地域で合意形成すれば良いのか？】
- ⑪、⑫事例に学ぶ地域資源と地域事業創造
【地域資源の発掘方法：よそ者/若者/馬鹿者、マッチング、由布院、みのう、門司港、東田】
【ディスカッション：北九州における未開の地域資源は何か？】
- ⑬、⑭地域事業創造のためのフォーメーションと外部マネジメント
【地域事業創造に必要な構成要素：地域マーケティング、社会的課題、ソーシャルメディア、担い手、サポーター】
【ディスカッション：これからの時代の地域事業とは？】
- ⑮地域づくりプロジェクトの提案
【どんな地域課題に対して、どんな地域資源を生かして、誰とつながるのか？】

成績評価の方法 /Assessment Method

地域づくりプロジェクトの提案レポート（70%）、ディスカッションに対する貢献度（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マーケティングや経営戦略といったベーシック科目をしっかりと習得していることを期待する。また、できればパブリックマネジメントやソーシャル・ビジネスの履修していることが望ましい。
本講義は2コマ連続の隔週開講とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネススクールならではの知見を応用しつつ、地域づくりを多角的に捉えて、具体的な案件をとりあげて議論を深めたいと思います。

キーワード /Keywords

地域事業創造、コラボレーション、すでに起こった未来、地域コミュニティ、NPO、ソーシャル・ビジネス、市街地活性化、社会的課題、合意形成

会社法【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	高度専門職業人として活動するために有益となる会社法に関する知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能	○	ビジネスにおいて生じ得る会社法上の問題を発見・処理するための技能を修得する。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

会社法

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。この講義では、会社のうち株式会社を中心に、会社のガバナンスやファイナンス・M&A 等に関する法制度を説明します。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
- ②会社の種類
- ③株式会社の設立
- ④株式(1)【株主の権利】【株式の種類】
- ⑤株式(2)【株式の譲渡】【株主名簿】
- ⑥株式会社の機関(1)【株主総会】
- ⑦株式会社の機関(2)【取締役】【取締役会】
- ⑧株式会社の機関(3)【株式会社の監査・監督】
- ⑨株式会社の機関(4)【役員等の義務】【役員報酬】
- ⑩株式会社の機関(5)【役員等の責任】【株主代表訴訟】
- ⑪株式会社の資金調達(1)【新株の発行】
- ⑫株式会社の資金調達(2)【新株予約権】【社債】
- ⑬株式会社の組織再編
- ⑭企業グループ
- ⑮まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表等のクラスへの貢献度...50%、レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計【夜】

担当者名 /Instructor 大崎 美泉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 管理会計の理論の理解に必要な専門知識を修得する。
	実践知識	◎ 管理会計の実践に必要な専門知識を習得する。
技能	分析解決技能	○ 管理会計の諸問題を解決するための分析手法を習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	△ 管理会計に関わる諸問題に関心を持ち続け、市民としての社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

管理会計

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

管理会計とは、企業の経営者や経営管理者がマネジメントを展開するために必要な情報を提供する会計です。本講義では、この管理会計の理論と技法について学んでいきますが、管理会計の特質と体系を理解し、管理会計の全体像を把握することから講義を始めます。

次に、経営戦略のための管理会計という観点から、経営戦略の策定における管理会計の有用性について、さらに、マネジメント・プランニング・アンド・コントロールのための会計という観点から、短期利益計画、予算管理、事業部制会計に関する理論と技法について学習していきます。

最後に、オペレーショナル・コントロールのための会計という観点から、購買管理、生産管理の論点を理解するとともに、管理会計の新しい課題についても議論していきます。

本講義の到達目標は、以下の通りです。

- ① 専門分野の知識・理解：管理会計の知識を理解したうえで、実務における分析方法を修得する。
- ② 課題発見・解決能力：企業の経営管理上の問題点を分析し、課題解決のための提案を行うことができる。
- ③ 生涯学習力：企業に止まらず、他の組織体のマネジメントにも知識を援用することができる。

教科書 /Textbooks

上総康行『管理会計論』（新世社、1993）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西村明、大下丈平『ベーシック管理会計』（中央経済社、2013）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業の方針、内容についての説明
2. 経営管理と会計、財務会計と管理会計 【会計の目的と機能】【PDCA】
3. 管理会計の発展系譜と管理会計の体系 【経営管理組織】【計画と統制】
4. 経営戦略の意義と管理会計の役立ち 【経営戦略論の展開】【環境分析と自社分析】
5. 長期利益計画とPPM 【利益目標】【事業の魅力度】
6. 競争戦略と原価企画 【製造環境の変化】【原価企画のステップ】
7. 投資の経済計算 【回収期間法】【現在価値法】
8. 価格決定と価格戦略 【原価補償】【戦略的価格設定】
9. 短期利益計画とCVP分析 【総資本利益率】【損益分岐点】
10. 限界利益分析 【自製か購入か】【不採算部門からの撤退】
11. 総合管理としての予算管理 【責任会計システム】【予算管理の基本機能】
12. 事業部制会計の概要 【分権化組織】【事業部の業績評価】
13. 内部振替価格と共通費の配賦問題 【原価基準と市価基準】【本社費】
14. 課業管理のための管理会計 【JIT】【品質管理】
15. 管理会計の新課題 【BSC】【病院管理会計】

管理会計【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み(30%)、授業への貢献(20%)、レポート(25%×2回)を勘案して、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「原価計算」や「経営学」に関する科目を履修済みである場合は、本講義の理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営倫理【夜】

担当者名 齋藤 貞之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 経営倫理に関連する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 組織における経営倫理のあり方を理解し、実践できる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	◎ プロフェッショナルとしての職業倫理を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

経営倫理

授業の概要 /Course Description

「経営」と「倫理」とは従来、矛盾・対立するものと捉えられてきた。これは古来から問いかけられてきた人間行為のジレンマを示してきた。果たして、このジレンマは、現代のマネジメント(経営)に携わる人間にとって、依然として二者択一の課題であるのか、あるいは両立するものなのか。この講義では、このジレンマを解き明かすことが、現代経営の最大の課題であることを、理論と実践を通してとらえることを目的とする。

マネジメントの内実は、営利企業であれ、非営利組織であれ、その本質は共通している。講義をとおして、MBA資格を取得することは、プロフェッショナルとしての職業倫理を身につけることが前提であることを学習する。プロとしての自覚である。

講義はディベートを中心とする。評論家ないしはパイ・スタンダーとしてではなく、実践する主体として一人称で語りあえる講義にしたい。

教科書 /Textbooks

その都度、指定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- J. Mackey & R. Sisodia, Conscious Capitalism: Liberating the Heroic Spirit of Business, 2013 Harvard Business School Publishing Corporation (鈴木立哉訳 『世界でいちばん大切にしたい会社』、翔泳社、2014年)
- Hamel, Gary., What Matters Now, 2012 John & Sons International Rights, Ind.
(有賀裕子訳 『経営は何をすべきか』、ダイヤモンド社、2013年)
- J.E.Poat, A.T.Lawrence and J.Weber, Business and Society: Corporate Strategy, Public Policy, Ethics, 2002
(松野・小坂・谷本訳 『企業と社会：企業戦略・公共政策・倫理(上・下)』、ミネルヴァ書房、2012年)
- P.F. Drucher, Management: Tasks, Responsibilities, Practices, 1973
(上田淳生訳 『マネジメント:課題・責任・実践』、ダイヤモンド社、2008年)
- L.I. Nash, Good Intentions Aside: A Manager's Guide to Resolving Ethical Problems, 1990
(小林俊治・山口善昭訳 『アメリカの企業倫理：企業行動基準の再構築』、日本生産性本部、1992年)
- T.R. Piper, M.C. Gentile and S.d. Parks, Can Ethics Be Taught?: Perspectives, Challenges, and Approaches at Harvard Business School, 1993 (小林俊治・山口善昭訳 『ハーバードで教える企業倫理』、生産性出版、1995年)
- D. Stewart, Business Ethics, 1996 (企業倫理研究グループ訳 『企業倫理』、白桃書房、2001年)
- 高 巖 『「誠実さ:インテグリティ」を貫く経営』(日本経済新聞社、2006年)

経営倫理【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 経営倫理はビジネススクールに必要なか：「イントロダクション」
【倫理、規範、功利主義】
- ② なぜ、内部告発は起こるのか：「コンプライアンスでは済まされないマネジメント」
【内部告発、内部統制、公益通報者保護制度】
- ③ 私人の悪徳は公益か？：「会社は誰のものか」
【会社法改正、所有権、エージェンシー理論】
- ④ 倫理的利己主義を考える：「ストックホルダーとステークホルダー」
【アングロサクソン型、日本型、ライン型、Stockholder, Stakeholder】
- ⑤ 経営道を築いた人々：「20世紀は、なぜマネジメントの時代なのか」
【渋澤栄一、ヘンリー・フォード、松下幸之助、利潤動機と奉仕動機】
- ⑥ マネジメントの役割・使命とは：「社会的機関としての企業、大学、自治体」
【制度的アプローチ、器官（機関）としての組織、ドラッカー】
- ⑦ “ナッツリターン”、“大塚家具”を考える：「同族経営がかかえる問題とはなにか」
《実践事例研究》：あなたは、何が問題だと考えるか？
- ⑧ 専門経営者対同族経営者：「ファミリービジネスは克服すべきか？」
【スリーサークル・モデル、同族経営、スチュワードシップ】
- ⑨ 企業の社会的責任がなぜ問われるのか：「CSRを考える」
《実践事例研究》：あなたは、何が問題だと考えるか？
- ⑩ 動く標的としてのCSR：「CSRとコーポレート・シチズンシップ」
【権限と責任、ミルトン・フリードマン、レビット、Nobless-Oblige、Enlightend Self-Interest, Philanthropy, Sustainability】
- ⑪ リーダーの資質を考える：「経営者能力は育てられるのか？」
【リーダーとマネジャー、マネジメント能力の3要素、】
- ⑫ インテグリティを問う：最高水準の経営者能力とは？
【インテグリティ、スチュワードシップ、右脳と左脳】
- ⑬ 危機の時代における経営学(マネジメント)の責任：「総合科学としての経営学の課題」
【理論と技術と規範、3.11と経営学、経営学の本流と主流】
- ⑭ 職業倫理とプロフェッショナルイズム：「ビジネススクールはプロを育てているのか？」
【プロフェッション、プロフェッショナルの責任】
- ⑮ 「経営倫理」に関する討議とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各テーマについてのディスカッションへの参加度・貢献度を6割、レポートの内容を4割として評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当日の講義のテーマに関するキーワードを事前に調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント、経営倫理、スチュワードシップ、インテグリティ

財務諸表分析 【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 会計業務や開示に関する実践的な知識を応用し、課題に取り組める。
	実践知識	○ 理論的な知識を実践可能な知識に落とし込むことができる。
技能	分析解決技能	◎ 課題に対する観察能力と、定性的、定量的な分析能力を習得している。
	実務技能	◎ 実務的な簿記会計の技能を身につけることができる。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 経営倫理なにかんずく会計倫理の観点を得、粉飾のリスクを知り、回避する。
	企業変革態度	○ 会計処理とシステムの効率化、有効化促進のための視点を獲得。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務諸表分析

授業の概要 /Course Description

ベーシック科目であるアカウンティングの知識を基に、本講座では財務会計領域の知識を幅広く積み上げ、意思決定、証券市場、さらには公認会計士による情報保証の問題を、未広がり考察対象に加えてゆく。本講座は慣習的な「会計学の講義」を展開することを意図するものではない。むしろ、刻々と変化するビジネス環境の下で、意思決定者は会計情報をいかに分析し、解釈し、自らの行動を選択するものか、そうした事柄を自発的に考えさせる機会を提供する。思考プロセスにあってはむしろ、国際会計基準 (IFRS) の考え方を学び、その発想方法を援用することもあろう。

本講義の到達目標は、履修者に財務諸表分析の視点を与え、受講終了後、受講者が決算報告書 (アニュアル・レポート) を分析、解釈、評価し、意思決定に必要な情報を、自在に取り出せるようになることである。

教科書 /Textbooks

『アカウンティングと財務諸表分析』
(初回授業時に、無償にて最新の第8版を配布する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(一例として) 田中建二著『財務会計入門』中央経済社 (但し授業にては用いず、購入は任意である)

財務諸表分析 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ベーシックの「アカウンティング」講座の応用編として、主として以下のコンテンツに関わる理解を深め、各々モジュールにして組み立て、財務会計全般の知識の体系化を図る（プレゼンテーションの時間などを要するため、講義順は変わることがある）。

①オリエンテーション：本講座でカバーされる領域と目的、課題等について。

【オリエンテーション】

②財務諸表書式の連関関係について：未実現損益の処理と包括利益の表示など。

【財務諸表のフォーマット】

③キャッシュフロー計算書の作成とその分析方法について。

【キャッシュフロー】

④利益操作の意図と報告利益品質について。

【アーニングズ・マネジメント】

⑤SFAS、IFRS等、会計基準（GAAP）の各論について。

【GAAP】【IFRS】【SFAS】

⑥財務諸表分析とその応用：企業価値評価への展望。

【財務諸表分析】

⑦（英文）アニュアル・レポートのコンテキストの理解。

【アニュアル・レポート】

⑧SEC 行政処分事例の実際について。

【SEC】

⑨財務諸表の信頼性保証とリスクについて。

【監査】

⑩バランスシートと会計的論点について（減損会計、時価会計等）。

【B/S イシュー】

⑪P/L と会計的論点について。

【P/L イシュー】

⑫証券市場規制と企業のディスクロージャー行動について。

【ディスクロージャー】

⑬会計情報と投資意思決定について。

【投資意思決定】

⑭財務会計のWrap-up.

【財務会計】

⑮財務会計の知識のアプリケーションと応用。

【アプリケーション】...以上に代表されるテーマについての理解を、受講者の知識経験のレベルにあわせて深めて行く。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの質(15%程度)、プレゼンテーション[=自ら選択した企業の財務諸表分析]の積極性やディスカッションに際しての貢献度(20%位)、期末試験の成績(65%位)、等を適宜ウェイト付けし、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度伝えます。各回配布済プリント等も、忘れず毎回、授業に際し持参してください。簡単な電卓も持参されると良いでしょう。

財務諸表分析の講座ではありますが、計算上の分析にとどまらず、結果的には会計の機能や役立ちを、幅広く俯瞰する科目になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は、履修者が自らの会計的視点を確立するための、ファシリテーターとしての役割を果たします。履修者自身が選んだテーマで、プレゼンテーションをしていただく機会を設けます。

キーワード /Keywords

上記の中でも特に、GAAP、IFRS、B/S、P/L、財務諸表分析、意思決定。

人材マネジメント【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 人材マネジメントの実践や理解に必要な基礎的理論知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 人材マネジメントの評価・分析に必要な基礎的枠組みを習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業変革における人材の関わりと人材マネジメントの役割を理解する。
	地域リーダー態度	○ リーダー育成にまつわる人材マネジメントの役割と方法論を理解する。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

人材マネジメント

授業の概要 /Course Description

企業戦略達成に向けた人材マネジメントの実践の基礎を学ぶ。企業の人材マネジメントを構成する各機能にまつわる理解を基礎に、それらを結合して企業の人材マネジメントシステムを作り上げるための視点の学習を進めていく。各講義回では、ミニ・ケースや雑誌・新聞記事を読み、あるいは映像を見て事例分析やケース・ディスカッションを行い、人材マネジメントにまつわる基礎的な諸理論・枠組みの理解と実践力の向上を図る。本講義の到達目標は、人材マネジメントを実践するうえでの基礎的な知識を習得することである。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布する。なお、ケースを用いる場合、そのケース代金（1冊千数百円）が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。なお、企業の人材マネジメントについての初学者は、参考書のいずれかの通読を強く推奨する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

守島基博『人材マネジメント入門』日経文庫,2004年。
高橋俊介『人材マネジメント論 新版』東洋経済新報社,2006年。
フェファー『人材を活かす企業』翔泳社,2010年。
今野浩一郎&佐藤博樹『人事管理入門<第2版>』日本経済新聞社,2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- #1 戦略と人材マネジメント(1)【SHRM、戦略人材】
- #2 戦略と人材マネジメント(2)【人材マネジメントポリシー】
- #3 フロー・マネジメント(1)【人材像、人材ポートフォリオ】
- #4 フロー・マネジメント(2)【採用マネジメント】
- #5 人材育成(1)【OJT、Off-JT、知的熟練】
- #6 人材育成(2)【ジョブ・ローテーション、サクセッション・プランニング】
- #7 評価・報酬マネジメント(1)【能力主義、成果主義】
- #8 評価・報酬マネジメント(2)【MBO、ピア・レビュー】
- #9 フロー・マネジメント(3)【定年、アウトプレースメント】
- #10 労使関係【集団的労使関係、個別的労使関係】
- #11 戦略的な人材マネジメント(1)【SHRM、人材像】
- #12 戦略的な人材マネジメント(2)【SHRM、HRMシステム】
- #13 戦略的な人材マネジメント(3)【SHRM、企業変革】
- #14 戦略的な人材マネジメント(4)【SHRM、HRMシステム設計】
- #15 人材マネジメントの役割【CHO】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度40%、小レポート30%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人材マネジメント 【夜】

履修上の注意 /Remarks

予習や復習にはかなりの時間が必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域産業【夜】

担当者名 /Instructor 平田 エマ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	日本の地域産業が直面する問題、課題について、十分な議論を行うことができる。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域リーダーとして主体的に行動をおこし、地域産業に関わる諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		
※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連			地域産業

授業の概要 /Course Description

北部九州エリアを中心に、地域を支える産業の特性を分析しながら、その育成策について実証的かつ実践的に学ぶ。とくに産業立地や産業集積という観点から、地域において主導的な役割を果たしていく産業の成長促進策について体系的に学ぶ。

一方、個別事例などを用いながら企業、事業所レベルのミクロの動きについても注意を払い、九州地域の中小企業が市場開拓や新規参入などを図る際の行動についても分析を加える。また、行政が進める戦略産業促進策や、企業・事業所の動きを支援する企業支援策についてもみていく。

2015年は、地方創生の取組についても各地域で議論が本格化することから、最新の事例も整理していく。

授業の到達目標は、①九州地域の企業が市場開拓や新規参入を図る際の行動を体系的に習得すること、②行政が進める戦略産業育成策を体系的に習得すること、③①、②を通じて九州地域の成長戦略を描く力を備えることである。

教科書 /Textbooks

授業の際に配布するプリントを中心とし、他に必要な場合は、その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度指示する。

地域産業【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①日本および九州地域の産業構造と変化の動向
【産業構造】【戦略産業】【地方創生】
- ②北部九州地域の産業構造
【北部九州】【福北大都市圏】
- ③主要産業の動向と地域に与える影響I
【素材産業】
- ④主要産業の動向と地域に与える影響II
【加工組立産業】
- ⑤主要産業の動向と地域に与える影響III
【商業・サービス業】
- ⑥地域産業における生産・流通システムの高度化I
【大企業】【事業再構築】【海外展開】
- ⑦地域産業における生産・流通システムの高度化II
【中小企業】【事業再構築】【海外展開】
- ⑧地域産業の新規事業開拓I
【既存取引活用型】
- ⑨地域産業の新規事業開拓II
【異分野展開型】
- ⑩地域産業の新規事業開拓III
【事業転換型】
- ⑪地域産業活性化への政策的対応I
【事業高度化促進】
- ⑫地域産業活性化への政策的対応II
【立地促進】【企業誘致】
- ⑬地域産業活性化への政策的対応III
【雇用促進】【人材活用】
- ⑭地域産業活性化への政策的対応IV
【集積促進】【イノベーション】
- ⑮まとめ
【地域産業育成のあるべき姿】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート60%、日常の授業での取組姿勢40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最新のデータ、最新の事例などを授業に入れていきたいと思っております。自分の所属する組織、見聞きしている業界の動向などについて、話題提供していただけると理解度が更に高まることが期待されます。

キーワード /Keywords

地域産業 成長促進策 中小企業 事業戦略 行政支援 産業戦略 成長戦略 地方創生

環境ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 環境ビジネスに関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	△ 環境ビジネス分野での新規事業構想力を身につける。
態度	倫理観態度	○ 環境問題に関する意識を高め、社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域やコミュニティの視点から環境ビジネスを構想する力を修得する。
	国際協調態度	○ 国際的な視野から環境ビジネスを構想する力を修得する。
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		環境ビジネス

授業の概要 /Course Description

本講義では、リサイクルビジネスを中心として環境ビジネスのマネジメントについて学ぶ。第1に経済システムという視点から環境問題や環境行動を考察する。第2に、環境ビジネス分野ごとの動向を把握し、現状分析と課題抽出を行い、その動向を探る。第3に、企業経営において必要とされる環境行動について検討し、分析フレームワークに基づく課題解決のためのプランを検討する。その上で、環境問題の解決に結びつくようなビジネスモデルを立ち上げることを想定したグループ学習を行う。

教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で紹介する。

環境ビジネス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【環境ビジネスとは何か】
- ② 企業活動と環境問題
【環境問題と企業活動の関係を考える】
- ③ 社会システムと環境問題
【持続可能な発展：市場・行政・社会のシステム】
- ④ 市場と環境問題
【市場システムを活用した環境問題解決手法】
- ⑤ リサイクルビジネスの基礎
【リサイクルビジネスの分野と成長可能性】
- ⑥ リサイクルビジネスの課題
【リサイクルビジネスの課題とその解決方法】
- ⑦ 環境ビジネスにおける顧客創造
【顧客とは誰か？顧客創造とは何か？】
- ⑧ 環境ビジネスの市場分析と参入可能性 1
【市場分析のフレームワーク】
- ⑨ 環境ビジネスの市場分析と参入可能性 2
【プレゼンテーションとディスカッション】
- ⑩ 環境ビジネスの市場分析と参入可能性 3
【プレゼンテーションとディスカッション】
- ⑪ 環境産業クラスター 1
【環境産業クラスターの現状と課題】
- ⑫ 環境産業クラスター 2
【環境ビジネスにおける戦略とCSV】
- ⑬ 現場から考える環境ビジネス 1
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑭ 現場から考える環境ビジネス 2
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑮ 課題発表とディスカッション
【課題設定にもとづきプレゼンテーションおよびディスカッション】

※なお、上記に加え、希望者による環境企業見学を行う（予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度（発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など）：50%、課題の内容（レポートなど）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講に際しては、一方で環境問題や環境活動に対する固定観念を一度取り払うこと、もう一方で環境問題に関連する社会経済の動向に注意を払うことを求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境問題、環境ビジネス、リサイクル、エコタウン事業

ベンチャー・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	ベンチャー企業成長モデルを修得する。
	実践知識	○	戦略思考とマーケティング手法を習得する。
技能	分析解決技能	○	スタートアップと持続的成長のスキルを習得する。
	実務技能		
	新規事業技能	◎	新規の事業計画と評価法を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	コーポレートベンチャリングを実践する力を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ベンチャー・ビジネス

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

本講義は起業家社会を標榜したアントレプレナーの行動特性などを踏まえながら、事業創造とスタートアップ、成長・発展から成熟までの各段階に対応した戦略、マネジメントについて検討する。コーポレート・ベンチャリング、スピンアウト、さらにはソーシャル・アントレプレナーなどを含む起業形態を想定した上で、情報サ・ビス業者の起業モデルなどを先例としたケース・スタディを行い、ビジネス・チャンスの探索、ビジネスプランの策定、企業設立、そして経営手法に学ぶ実践的学習方法を取り入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

越出均『起業モデル』、創成社
 ティモンズ『ベンチャー創造の理論と戦略』、ダイヤモンド社
 ヴェスパー『ニューベンチャー戦略』、同友館

ベンチャー・ビジネス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 起業家精神と行動特性
【アントレプレナーのマインドと学習】
- ② シリコンバレー・モデル
【ビジネス・インキュベーション】
- ③ ベンチャー企業のスタートアップ
【革新的スモールビジネスの存続条件】
- ④ ベンチャー企業の創造プロセス
【ビジネスチャンスの探索と戦略思考】
- ⑤ ベンチャー企業の成長と発展
【変革と成長の痛み】
- ⑥ ベンチャー企業のマネジメント
【経営のプロフェッショナルをめざして】
- ⑦ ベンチャー企業・革新的中小企業の実際
【ゲストによる事例報告】
- ⑧ コーポレートベンチャリング
【社内起業家の取り組みと第二創業】
- ⑨ 研究開発の事業化
【事業提携とジョイント・ベンチャー】
- ⑩ ソーシャル・ベンチャー
【事業志向型の社会起業家】
- ⑪ ネットベンチャー
【ビジネスモデルの創造】
- ⑫ 新規事業のプランニング
【事業計画書の作成】
- ⑬～⑮ ビジネスプランの作成とプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションへの貢献度(2割)と課題に関するレポートで評価(8割)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦略的提携と事業創造【夜】

担当者名 森永 泰正 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 他組織との提携・連携に関する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	◎ 事業創造に必要な戦略的提携を実現するための能力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業変革に必要とされる戦略的提携を構築する能力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

戦略的提携と事業創造

授業の概要 /Course Description

- 人口減少に伴い中長期では緩慢なる衰退が予想される国内産業が取るべき対策につき検討します。特に製造業では、国内外の競争が拡大・激化し、嘗て経済の成長に合わせ増強した人員・設備等をグループ内或いは他企業との再編等により効率化を進めることが経営の課題の一つとなっています。
- 講師は商社営業部門のひとつで営業企画を長年担当。講義では2000年以降、担当分野でダイナミックに再編・連携が進んでいる実態を紹介すると共に、特定企業の業績の変化等の事実を通じ経営者として必要な資質についても議論します。
- 講義前半は、刻々と変化する内外の経営環境について講師が見解を述べ、受講者と自由討議を行います。講義後半は、予め配布の資料を基に設問につきグループにて討論し、その後グループ代表が答えを発表する形式です。

教科書 /Textbooks

資料を都度事前に準備します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NHKスペシャル取材班『新日鉄vsミタル』ダイヤモンド社
 嶋田賢三『責任に時効なし 小説 巨額粉飾』アートエイク社
 野中郁次郎・勝見明『イノベーションの知恵』日経BP社
 ニール・ファーガソン『劣化国家』東洋経済新報社
 クレイトン・クリステン『経営論』ダイヤモンド社、『イノベーションのジレンマ』他イノベーションシリーズ 翔泳社
 ハーバート・ビネズビユー『戦略論1994-1999』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 「カネウ」の事例：【事業多角化の課題】
- ② 同：【企業買収】での留意点。
- ③ 「国内電炉」の事例：【ソフトライアンス】
- ④ 同：【オーナー企業の提携】
- ⑤ 「アルセロミタルと新日鐵」の事例：【川中業界の課題】
- ⑥ 同：【グローバル経営】の困難さ
- ⑦ 「戦略提携」の基礎：【DCF、株主価値】
- ⑧ 同：【提携交渉の流れ】「守秘契約～DD～払込み」
- ⑨ 「金融機関」の事例：【国内金融の流れ】
- ⑩ 同：【与信と金利】
- ⑪ 「商社」の事例：【種類株式】
- ⑫ 同：【リーダーの資質】
- ⑬ 「九州」の事例：【北九州と博多の比較】
- ⑭ 同：【ものづくりの復権】の為の議論
- ⑮ 纏め

戦略的提携と事業創造【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

自由討議への貢献度60%、レポート(適宜)40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

隔週2コマ連続予定です。財務諸表、株主価値、株価に関心を持って頂きます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「ものづくり」復権と「強い経営人材」の育成が目的です。

キーワード /Keywords

フィナンシャル・インベストメント【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 1学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	フィナンシャル・インベストメントに関する専門知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	フィナンシャル・インベストメントに関する定性的・定量的分析能力を習得する。
	実務技能	○	フィナンシャル・インベストメントに関する実務的な技能を身につける。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	企業経営に関してフィナンシャル・インベストメントの観点から変革する力を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

フィナンシャル・インベストメント

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

さまざまな金融商品のリスク・リターン特性、証券市場の価格決定メカニズムを学んだうえで、ポートフォリオの運営やデリバティブの活用法などについて実例を交えながら学ぶ。具体的には、金融・証券市場、投資の基本概念、債券投資、株式投資、デリバティブ、現代ポートフォリオ理論、資本市場理論などについて、実例を通して学び、自ら分析できるようにする。そして、分析手法をケース・スタディに活用して、実践的な分析力を養い、適切な経営判断ができるようにする。
到達目標は以下のとおり。①投資の基本概念を理解し、投資分析ができるようになる、②ポートフォリオ理論を理解し、証券データを使って分析できるようにする、③デリバティブの仕組みと利用法を理解する。

教科書 /Textbooks

ボデイ&マートン&クリートン (著) 大前恵一朗 (訳) (2011年) 『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ブリーリー&マイヤーズ&アレン (著) 藤井真理子・国枝繁樹 (監訳) (2014年) 『コーポレート・ファイナンス (第10版) 上』、『同 下』日経BP社ほか

フィナンシャル・インベストメント 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨN 【ファイナンス】
- ② 金融市場と金融資産
【市場】【債券】【株式】【派生商品】【機関投資家】
- ③ 投資の基本概念
【現在価値分析】【投資収益率】【効用】
- ④ 債券投資分析(1) 金利と債券価格
【最終利回り】【デフレーション】【イールド・カーブ】
- ⑤ 債券投資分析(2) 金利の期間構造
【イールド・カーブの特性】【純粋期待仮説】
- ⑥ 株式投資分析(1) 配当割引モデル
【ゼロ成長モデル】【定率成長モデル】
- ⑦ 株式投資分析(2) 市場の効率性と株式投資
【効率的市場仮説】【アノマリー】
- ⑧ デリバティブ(1) 先物の理論価格とヘッジ
【先物取引】【先物取引】【ベース・リスク】【ヘッジ比率】
- ⑨ デリバティブ(2) オプションの仕組みと利用法
【コール・オプション】【プット・オプション】【本源的価値】
- ⑩ ポートフォリオ理論(1)
【期待収益】【投資リスク】【分散投資のリスク軽減効果】
- ⑪ ポートフォリオ理論(2) 最適ポートフォリオ
【無リスク証券】【分離定理】
- ⑫ ポートフォリオ理論(3) ケース・スタディ
【アセット・アロケーション】
- ⑬ 資本市場理論(1) CAPM(資本資産評価モデル)
【資本市場線】【ベータ】
- ⑭ 資本市場理論(2) 裁定価格理論
【ファクター・モデル】【裁定ポートフォリオ】
- ⑮ 資本市場理論(3) ケース・スタディ

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度	30パーセント
課題の提出	70パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「ファイナンス」を履修しておくことが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 田端 弘道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	◎	中国ビジネスに関連する専門的知識を身につける。
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	中国ビジネスを事業の成長につなげる視点を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	中国市場の特性やビジネス習慣を理解し、国際的にビジネスを推進できる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

中国ビジネス

授業の概要 /Course Description

中国は米国に続き、世界第2位のGDPに成長しており、近い将来は米国を凌駕し、世界第1位に成長すると予測される一方で、最近では領土問題を契機として反日活動も展開されており、「チャイナ・プラス・ワン」、「チャイナ・リスク」などのキーワードが頻繁に目に触れるようになってきている。

しかし、成長を続けている巨大市場は日系企業をはじめ、グローバルの企業にとってリスクを乗り越えれば依然魅力的な市場であり、逆境下で勝ち残った企業は真の実力企業となっている。

本講義は中国進出から市場開拓に取り組み、中国で成功したビジネスモデルを取り上げ、それぞれの事業戦略、事業の展開の経緯、リスク対策など実際に中国に駐在した経験を踏まえて伝授していく。

また、本講義の中でグローバル企業とは何かを追求していき、中国のみならず米州・欧州・アジアでの事業戦略も取り上げて「グローバルでのビジネス展開」を伝授する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指定する。

中国ビジネス 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション ~ 講義内容の構成、進行方法
【市場の特性】【中国事業の歴史】
- ② 中国事業の展開
【中国での成功戦略は何か】
- ③ 成功要因 ~ その1
【中国国内向け販売戦略】【販売チャネル】【優良パートナー】【ブランドの構築】
- ④ 成功要因 ~ その2
【統括会社設立と役割】【有能なローカル人財の活用】
- ⑤ 成功した企業のビジネス展開
【中国で成功した企業事例】
- ⑥ 失敗事例
【中国で失敗した事例】
- ⑦ 圧倒的な商品価値の提供
【良品質・新技術・生活文化提案】【グローバルにみたエリア別戦略】
- ⑧ ブレーンストーミング
- ⑨ 最強の販売体制構築と商品以外の差別化戦略
【販売の差別化】【現金取引】【売れ筋の早期把握】【販売員教育】【アフターサービス体制】
- ⑩ 広告宣伝戦略と生活文化向上提案 ~ 中核商品での差別化
【ブランドイメージ】【TVCM】【ウォシュレットのマーケティング事例】
- ⑪ 危機管理
【偽物対策ほか】
- ⑫ 製造系会社の事例
【中国における製造拠点の考え方】
- ⑬ 中国事業モデルとの対比 ~ 米州・欧州・アジア~
【共通する事業戦略】【市場による違い】
- ⑭ グローバルでのビジネス展開
【グローバル企業に必要なこと】【ブランドの重要性】
- ⑮ まとめ = 総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 課題に対するレポート (40%)、
 - ② 授業の途中で課される課題への解答・考え方の精度 (30%)
 - ③ 授業への参加姿勢 (30%)
- 上記①～③をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

中国市場に関する知識の有無は前提としないが、グローバルでのビジネス知識・感覚を身に付けたいという意欲は必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国市場、グローバル、ビジネスの考え方

環境政策【夜】

担当者名 /Instructor 松岡 俊和 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 環境政策に関連する専門的かつ実践的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 環境問題に関する意識を高め、社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域において環境問題解決を提示する力を身につける。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

環境政策

授業の概要 /Course Description

北九州市はOECD緑の成長都市モデルに選定されるなど国内外から環境都市として高い評価を得、都市の成長エンジンとして「環境」を掲げている。(Green Growth City) その環境の取組について、公害、廃棄物、エネルギー等の個別要素単位に、ディスカッションを主体とした解析と、北九州市の環境政策をとりまとめたOECDレポートの改めでの検証を行う。最後に、北九州市が地域政策としてGreen Growth Cityを推進していく上での方向性、今後の取組のあり方をとりまとめる。

教科書 /Textbooks

OECDグリーン成長スタディ「北九州のグリーン成長」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

環境政策 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 環境政策総論①
【講義の趣旨・進め方、北九州市の環境政策の概要】
- ② 環境政策総論②
【時代の変遷とともに広がる環境政策】
- ③ 公害克服の歴史を考える
【公害事象、公害対策、クリーナープロダクション】
- ④ 環境問題と各セクターの関わりを考える
【住民運動、リスクコミュニケーション、環境教育】
- ⑤ 一般廃棄物処理事業を考える
【廃棄物処理の歴史、ごみの有料化、行政と住民の役割分担】
- ⑥ エコタウン事業を考える
【誕生秘話、環境産業化、社会経済との融合】
- ⑦ 低炭素社会づくりを考える
【地球温暖化対策、環境モデル都市、環境未来都市】
- ⑧ エネルギー政策を考える
【北九州市のエネルギー事情、再生可能エネルギー、地域エネルギー政策】
- ⑨ 環境の街づくりを考える
【東田グリーンビレッジ構想、街づくりの主体】
- ⑩ スマートコミュニティ事業を考える
【地域節電所、スマート社会】
- ⑪ 環境国際協力を考える
【自治体と国際貢献】
- ⑫ 環境国際ビジネスを考える
【感謝されるビジネス】
- ⑬ OECDレポートを検証する①
【レポートが掲げる成果】
- ⑭ OECDレポートを検証する②
【レポートが掲げる提言】
- ⑮ 緑の成長に向けての提案とりまとめ
【自らが考える緑の成長】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加姿勢 (30%)、授業中のディスカッションへの貢献度 (40%)、課題レポート (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

その都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境政策に対して、社会的側面、経済的側面など多方向から切り込んでいく意欲のある学生を期待しています。

キーワード /Keywords

北九州市の環境政策、緑の成長、サステナビリティ、多様性、国際展開

医療マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 小野村 健太郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 医療マネジメントに関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 医療の現場における課題を適切に抽出し、分析する力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 医療の専門的知識に裏付けられた、高い倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとして、医療マネジメントに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

医療マネジメント

授業の概要 /Course Description

医療の歴史を振り返りながら、現代の医療とリわけ日本の医療の現場において、何が課題なのかを分析し考察する。医療マネジメントは、これらの課題に医療従事者が積極的に取り組み、質の高い医療を効果的に患者に提供するための一連の創造的活動である。医療マネジメントの理論を正しく効率的に現場で活用するためには、医療経済、医療制度、法、安全管理や組織論に精通する必要がある。これらを実用的な立場に立ってわかりやすく解説する。また、医療従事者が医療マネジメントの専門的知識を正しく修得し得たとしても、高い倫理観に裏付けられた適正なリーダーシップを発揮できなければ、上述の課題は解決には向かわない。リーダーシップに関する従来の知識や理論に対する誤解を具体例を挙げて指摘し、誰もが医療マネジメントに精通したリーダーとなり得ることを解説する。

教科書 /Textbooks

毎回、資料を用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

患者塾、毎週火曜日毎日新聞西部本社版に連載中
 厚生労働白書、平成25年版、厚生労働省編
 医療マネジメント、真野俊樹、2004、日本評論社
 ベーシック医療問題(第4版)、池上直己、2010、日本経済新聞社
 マネジメント - 基本と原則、PFドラッカー、上田惇生編訳、2001、ダイヤモンド社
 入門・医療倫理1、赤林朗編、2005、勁草書房
 リーダーシップ、Harvard business review、2002、ダイヤモンド社

医療マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 医療マネジメントとは？そして、今なぜ医療マネジメントなのか？
患者医師関係を中心に医療の歴史を振り返ったあと、医療をマネジメントすることの必要性とその方法論を解説する。
- ② マネジメントとは？
ドロッカーのマネジメントの理論を概観し、医療の現場においてマネジメントに何ができるのかを考える。
- ③ 医療において何が問題なのか 1
医療サービスの支払い方式を中心に各国と日本の医療保障制度を比較検討し日本の医療の問題点を浮きぼりにする。
- ④ 医療において何が問題なのか 2
医療費を適正化し医療の質を向上させるために何が課題なのかを解説する。
- ⑤ 医療において何が問題なのか 3
医療従事者に必要な意識改革と患者に必要な意識改革について述べる。
- ⑥ 医療マネジメントの基礎知識 1 1.医療と医療の費用に関わる法制度の変遷
2.DPCの正しい理解と実践のために
- ⑦ 医療マネジメントの基礎知識 2 医療従事者のための医療経済学と医療政策
医療における経済的評価の理論と実際を、実例を挙げながらわかりやすく解説する。
また、医療政策が何を指すべきかについて概説する。
- ⑧ 医療マネジメントの基礎知識 3 生き残りのための経営戦略
基準病床数の存在や医局制度による人事など、医療機関の経営戦略の特異性に言及しながら、医療機関の生き残りのためのマネジメントを解説する。
- ⑨ 医療マネジメントの基礎知識 4 収益管理とコスト管理
医療においては、「収益管理からコスト管理へ」の時代と言われる。その背景と具体的なマネジメントについて解説する。また、資金管理と投資、資金調達についても触れる。
- ⑩ 医療マネジメントの基礎知識 5 組織を活性化するために
人材管理やチームマネジメント、TQM、オペレーションマネジメントについて解説する。
- ⑪ 医療マネジメントの基礎知識 6 医療機関のICT戦略と安全管理
医療機関のICTの発達とともに安全管理の取り組みも大きく変貌している。医療機関のICT戦略と見逃しがちな安全管理の落とし穴について詳説する。
- ⑫ 医療マネジメントに求められる医療倫理とは？
実例として、尊厳死を求める瀕死の患者の家族に医療現場はどう対応すればいいのか - を考えながら、「医療倫理」の問題点と必要性を解説する。あわせて患者満足についても考える。
- ⑬ リーダーシップに関する最近の考え方
ハーバードビジネススクール等におけるリーダーシップの最近の理論を概観する。
- ⑭ 医療マネジメントのためのリーダーシップ
医療現場におけるリーダーシップの特異性を考察する。その上で、職種にかかわらず地域と医療現場のリーダーとなることの必要性と可能性について述べる。
- ⑮ まとめにかえて 医療事故謝罪記者会見シミュレーション
医療事故は、まさかのものではなく残念なことにごく身近なものになっている。あなたの現場でも起こりうる医療事故を想定し、現役の報道記者にも立ち会ってもらい、謝罪記者会見のシミュレーションを行う。このシミュレーションを通じて医療マネジメントの意義を総括したい。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（毎回講義終了後にレポートを提出） 50%、
レポート（すべての講義終了後に提出） 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、「つづきもの」として連続性を持たせた授業計画になっているので、授業の始めに前回分を簡単に振り返ったあとで新しい内容の講義に入る予定です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

医療マネジメントは、医療従事者のみのものと考えられがちですが、「賢い患者」として効率的に医療を利用するためにもきわめて有用な情報を提供してくれます。医療従事者以外の方でも、少しでも関心のある方は、ぜひ気楽な気持ちで履修してください。
また、基礎知識や医療現場の実体験がなくても、講義を楽しみながら「医療マネジメント力」を身につけることができるように、授業計画と内容を工夫したつもりです。

キーワード /Keywords

医療問題、マネジメント、医療経済学、コスト管理、医療政策、患者満足度、医療倫理、リーダーシップ

福祉マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 今村 浩司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	福祉マネジメントに関連する専門的知識とマネジメントツールを習得する。
技能	分析解決技能	○	福祉の現場における課題を適切に抽出し、分析する力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	福祉の専門的知識に裏付けられた、高い倫理観を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとして福祉マネジメントに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

福祉マネジメント

授業の概要 /Course Description

社会福祉の分野では、現代社会の変遷とともに、より高度で多様化したサービスの提供が求められるようになってきた。それに応えるためには、安定的かつ効率的な組織運営、経営管理を担うマネジメント能力が必要である。さらには、福祉サービスを必要とする利用者に対して、直接的な援助活動はもとより、福祉事業の経営管理、福祉施策・制度についての知識も必要不可欠である。

そこで本講義では、社会福祉サービスの提供の実態を把握した上で、マネジメントの対象である人、専門職、組織等を中心に、社会福祉サービスにおける問題を多面的視点から捉え、分析できるための基本的な知識を習得することを目標に進めていく。

教科書 /Textbooks

特に指定なし。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義内で、随時提示、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
- ② 現代社会と社会福祉
- ③ 社会福祉の現状
- ④ 社会福祉の目標
- ⑤ 社会福祉サービスの実際(1)
- ⑥ 社会福祉サービスの実際(2)
- ⑦ 社会福祉サービスの実際(3)
- ⑧ 社会福祉サービスの実際(4)
- ⑨ 福祉領域における経営戦略
- ⑩ 福祉領域におけるリスクマネジメント
- ⑪ 福祉領域におけるリーダーシップ
- ⑫ 福祉マネジメントの課題
- ⑬ 福祉マネジメントの展望
- ⑭ まとめ(1)
- ⑮ まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対してのレポート50%、講義に対する参加度と貢献度50%を目安として総合的に成績評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高齢者、障害者、児童等を取りまく社会問題についての状況を把握し、問題意識を高めておくこと。

福祉マネジメント【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主体的な学びを促すため、事前・事後のレポートやプレゼンを課す場合がある。実践的内容を理解するため、福祉活動実践家をゲストスピーカーに招く場合もある。

キーワード /Keywords

福祉マネジメント、福祉ビジネス、地域社会、社会問題、組織運営、経営管理

自治体政策【夜】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	自治体政策に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	○	自治体政策に関連する政策ツールを理解し、活用方法を習得する。
技能	分析解決技能	○	地域の課題を適切に把握し、解決に向けた分析を行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能	△	新たな政策やプロジェクトを企画する力を身につける。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	自治体政策の専門的知識を活用して、地域の諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

自治体政策

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

地方分権が進む中において、自治体が企画・立案・執行する「政策」が一層重要となってきた。一方、社会経済を取り巻く諸状況が複雑化・多様化し、また自治体財政の厳しい状況が続く中、地域に望ましい政策の形成に際しては様々な課題に直面せざるをえない。こうした点を踏まえ、本授業の前半においては、自治体の政策形成等に係る手法や仕組み、課題等を論じた上で、現在、政策のあり方に影響を与えている事項や今後望まれる方向性等について、事例なども踏まえながら総合的に考察する。後半においては、現在の自治体にとって喫緊の課題であり、かつ企業活動や市民生活とも密接な関わりを持つ「危機管理政策」「にぎわいづくり政策」に焦点を絞り、ケーススタディを交えながら具体的な政策について考察し、自治体政策を取り巻く諸課題や政策形成手法等への理解を深める。これらを通じ、本科目のDPに掲げる到達目標に達し、自治体政策への専門性向上および実社会での応用力向上を目指す。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 幸田雅治・坂弘二(2007年)『自治体職員研修講座 政策形成・自治体法務』、学陽書房
 - ・ 中邨章・市川宏雄編著(2014年)『危機管理学 - 社会運営とガバナンスのこれから』、第一法規
 - ・ 『月刊 ガバナンス』、ぎょうせい
 - ・ 『月刊 地方自治職員研修』、公職研
- その他、必要に応じ、適宜授業中に紹介する。

自治体政策【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨN
【自治体政策のめざすもの】
- ② 政策形成プロセス
【政策形成の仕組み】
- ③ 国、広域自治体、基礎自治体の果たすべき政策上の役割
【地方制度改革、地方分権】【規制緩和】
- ④ 政策の推進主体を巡る近年の議論
【大都市制度】【広域連携】【道州制】
- ⑤ 政策の方向性を巡る近年の議論（1）
【地方創生】【市民協働】【PPP】
- ⑥ 政策の方向性を巡る近年の議論（2）
【行財政改革】【公共施設のアセットマネジメント】
- ⑦ 政策に係る合意形成
【合意形成】【コンセンサス】
- ⑧ 政策の評価
【行政評価】【成果指標】
- ⑨ 政策研究I：危機管理政策（1）
【危機とリスク】【リスクマネジメント・サイクル】
- ⑩ 政策研究I：危機管理政策（2）
【自治体BCP (Business Continuity Plan)】【情報伝達】
- ⑪ 政策研究II：にぎわいづくり政策（1）
【中心市街地活性化】
- ⑫ 政策研究II：にぎわいづくり政策（2）
【エリアマネジメント】【中核的施設整備】
- ⑬ 政策研究III：にぎわいづくり政策（3）
【観光政策】【イベント開催】
- ⑭ 政策研究III：にぎわいづくり政策（4）
【MICE誘致】
- ⑮ まとめ（総合討論）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート50%、授業の状況（質疑、意見等）50%をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

理論面に加え、できるだけ直近の自治体政策の動向への理解が深まるよう、事例紹介やディスカッション等を行う。自治体政策をめぐる最新動向や履修者の関心等を鑑みた上で、授業計画について若干の変更を行う可能性がある。

キーワード /Keywords

政策形成、地方制度改革、合意形成

モノづくり競争力の強化【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 新治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 生産や製造に関するマネジメントに必要な専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 生産や製造に関する問題点を適切に把握する能力を身につける。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 生産や製造に関する問題点を解決し、変革の道筋を提示する能力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

モノづくり競争力の強化

授業の概要 /Course Description

わが国は、資源小国であり、製造業が勝ち残るためには、モノづくりの競争力で世界に優位に立たなければならない。メイド・イン・ジャパンとして、世界トップのものづくり大国だった日本は80年代には勤勉さがもたらした高品質でその優位を保ってきたが、今やそれだけでは追い上げてきている諸国に足元を脅かされてきている。この現状を踏まえ、今後モノづくり競争力をどのような方法で強化すべきかを実務家の視点から、人材育成と工場運営のあり方、生産性の重要性、生産技術などに重点をおき、その対策方法について事例を紹介しながら解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「トヨタで学んだ工場運営」(海外工場へはどのように展開したのか)
雨澤政材(あめざわまさもと)著、日刊工業新聞社、2014年10月発行、
その他はその都度指定する。

モノづくり競争力の強化【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義方式に加えて、DVDやプロジェクターを活用し、分かりやすい解説を心がける。質疑応答の時間を十分取り、理解を深めてもらう。

- ① モノづくり企業に求められる競争力
【開発からアフターサービス】【商品開発力】【生産技術力】【工場運営能力】【宣伝・販売力】
- ② 工場管理概論
【企業による工場の位置づけ】【工場管理の基本】【工場の持つべき要件】
- ③、④ 企業の発展と人財育成
【労務管理の変遷】【「人材」から「人財」へ】【企業風土（職場風土）づくり】
【管理者の役割】【職場の働きがいとモチベーション管理】
- ⑤、⑥ 原価管理
【原価管理の体系】【原価構成・費目区分】【開発段階での原価改善】【製造原価の把握と改善】
- ⑦、⑧ 品質管理
【トヨタの品質管理】【お客様指向】【停めるライン・止まる機械】【自工程完結思想】
【トレーサビリティ】【日常管理】【変化点管理】【品質アセスメント】
- ⑨ トヨタ生産方式の生まれた背景
【トヨタの歴史】【経営理念】【トヨタ生産方式とは】
- ⑩ トヨタ生産方式の特徴
【限りない原価低減】【TPS2本の柱】【TPSの広がり】
- ⑪ トヨタ生産方式の基本的な手法
【5S】【職場の見える化】【ムダの削減・排除】【生産ラインの作り方】
- ⑫ トヨタ生産方式の具体的な改善の進め方
【基本姿勢】【改善の切り口】【生産仕掛けの改善】【人の動きの改善】【物流・品質改善】
- ⑬ 人財育成～技能伝承と職場活性化の具体的実践事例
【標準化と技能伝授】【ワーキングライフプラン】【チームプレイという現場風土の伝承】
【真のQCサークル活動とは】【レクサス・匠活動】
- ⑭、⑮ 工場における実践事例見学
トヨタ自動車九州㈱のレクサスラインで確認（1月の祝日に実施）

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取組姿勢30%
課題についてのレポート評価70%
(講義の理解度・習得度30%・自分の立場や将来展望からの主張40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践的統合マネジメント能力、人財育成、組織の活性化、品質管理、トヨタ生産方式、レクサスブランド

ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	◎ ソーシャルビジネスに関連する専門的かつ実践的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ ソーシャルビジネス分野での新規事業構想力を身につける。
態度	倫理観態度	○ 社会問題に関する意識を高め、社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域やコミュニティの視点からソーシャルビジネスを構想する力を修得する。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ソーシャル・ビジネス

授業の概要 /Course Description

近年、社会的課題をビジネスのスキームを用いて解決しようとする「ソーシャルビジネス」への期待が高まっている。本講義では、ソーシャルビジネスのマネジメントについて学ぶ。具体的には、解決すべき社会的課題の設定からビジネスモデルの作成までを事例やケース分析などを通じて学習する。講義では、実際にソーシャルビジネスを立ち上げ運営していくことを想定したディスカッションやワークショップを行い、知識と実践的なマネジメント力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒崎弘樹 『「社会を変える」を仕事にする』ちくま文庫、2011年。
- 小暮真久 『「20円」で世界をつなぐ仕事』日本能率協会マネジメントセンター、2009年。
- 上阪徹 『「カタリバ」という授業』英治出版。

その他の文献については、講義のなかで紹介する。

ソーシャル・ビジネス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【本講義のねらいと進め方の説明】
- ② ソーシャルビジネス概論
【ソーシャルビジネスとは何か？】
- ③ ソーシャルビジネスの事例から学ぶ 1
【事例分析を通じソーシャルビジネスの活動領域や特色について検討する】
- ④ ソーシャルビジネスの事例から学ぶ 2
【成功したソーシャルビジネスの共通点を探る】
- ⑤ ミッションをつくる 1 (ケースメソッド)
【社会的課題の抽出と発見の手法】
- ⑥ ミッションをつくる 2 (ケースメソッド)
【社会的課題を解決するスキーム】
- ⑦ 事業をつくる 1 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスの事業構造】
- ⑧ 事業をつくる 2 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスにおけるビジネスモデルの特徴】
- ⑨ 中間プレゼンテーション 1
【ソーシャルビジネスプランの構築と発表】
- ⑩ 中間プレゼンテーション 2
【各自のプランの課題と解決方法を探る】
- ⑪ 利益をつくる 1 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスの顧客と収入】
- ⑫ 利益をつくる 2 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスの収益構造の特徴】
- ⑬ 社会をつくる 1 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスからソーシャルイノベーションへ】
- ⑭ 社会をつくる 2 (ケースメソッド)
【社会をデザインする】
- ⑮ ソーシャルビジネスプラン・プレゼンテーション
【プレゼンテーションとディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度 (発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など) : 50%、課題の内容 (レポートなど) : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備は必要ないが、地域づくり総論やNPO / NGO実践論を併せて受講すると、より理解が深まると思われる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、社会課題、NPO、CSR、CSV

医療経済【夜】

担当者名 /Instructor 舟谷 文男 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	医療経済に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとして医療経済に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

医療経済

授業の概要 /Course Description

医療は人間社会にとって必須の公共的社会サービスであり、社会保障制度の一つとして重要な役割を担っている。また、医学・医療技術は日進月歩の発展をみているが、その恩恵を、いつでも、どこでも、誰でも受けられる医療システムの仕組みはどのように構築すべきか、その社会コストを誰が支払うのか、人の命を救う価格は決められるのか、医療サービスを提供する専門職種や医療施設はどのような組織構造を持っているのか、国民皆保険制度による経世済民の視点から、医療経済学の基本を幅広く理解させる。

教科書 /Textbooks

なし。(Power Point版講義資料のプリントを配布)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

厚生労働省編『厚生白書』、真野俊樹著『入門医療経済学』中公新書、的場恒孝編『医療科学入門』南江堂、厚生労働省編『国民衛生の動向』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 医療経済学概論
- ② 社会変動と医療需要・供給関係
- ③ 社会保障と医療保険
- ④ 医療サービスの値段
- ⑤ 医療サービス資源とその動向
- ⑥ プライマリーケアと産業保健
- ⑦ 医療の人的資源と労働
- ⑧ 医療保障と地域医療
- ⑨ 医療の安全管理 1【医療事故】
- ⑩ 医療の安全管理 2【防災・減災】
- ⑪ 医療情報システム
- ⑫ 医療評価
- ⑬ 地域の保健・医療・福祉の一体化・地域包括ケア
- ⑭ 医療経済学の研究手法と論文作成の要点
- ⑮ 21世紀のパラダイムシフト：医療経済学まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの評価(70%)、日常の授業への取り組み(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞などマスコミが取り上げる医療問題、介護福祉問題等に絶えず関心を持ち続けること。

医療経済【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

医療は特殊な分野と捉えられがちであるが、良い医療を実現するためには、全ての事業と共通する人材管理・育成が基本であることを念頭に受講して下さい。

キーワード /Keywords

社会保障、医療需要、医療供給資源、人材管理・育成、診療報酬制度、地域医療計画、医療安全、医療情報システム、医療評価、地域包括ケア

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 一成 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 社会保障に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとして社会保障に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

社会保障

授業の概要 /Course Description

社会福祉から公衆衛生までの幅広い領域にわたる社会保障の制度や仕組みは、社会通念や人口構成、生活環境、格差などの文化的、社会的、政治経済的な状況によって形づくられ、変化していきます。人間や社会とは何かという根源的な問いを原点に社会保障の概念を整理し、制度についての理解を深めるとともに、社会保障に関する事業やリスクのマネジメント、地域包括ケアなど、社会保障をより良く運営する方法についても考えていきます。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 椋野美智子、田中耕太郎著『はじめての社会保障—福祉を学ぶ人へ—』有斐閣
- ・ 鬼崎信好編『四訂 社会福祉の理論と実際』中央法規
- ・ 広井良典著『日本の社会保障』岩波新書
- ・ 見田宗介著『現代社会の理論』岩波新書
- ・ J・K・ガルブレイス『ゆたかな社会』岩波現代文庫
- ・ 立川昭二著『病気の社会史』岩波現代文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 社会保障の概念と歴史 【概念・定義とその形成史】
- ② 社会保障制度の基礎知識(1) 【現行制度や法令の体系と専門用語】
- ③ 社会保障制度の基礎知識(2) 【各種法人などの事業主体、事業内容、専門職】
- ④ 社会福祉制度の概要 【公的扶助、障害福祉、高齢者福祉】
- ⑤ 医療保険制度と医療提供体制 【皆保険とフリーアクセス、医療計画】
- ⑥ 介護保険制度とサービス提供体制 【介護保険事業計画、サービス提供主体】
- ⑦ 公衆衛生の概要 【感染症・疾病対策、保健衛生と地域づくり】
- ⑧ 医業とマネジメント 【事業経営、リスクマネジメント】
- ⑨ 介護事業とマネジメント 【事業経営、リスクマネジメント】
- ⑩ 社会保障制度改革の概要と課題 【社会福祉基礎構造改革、社会保障・税一体改革】
- ⑪ 社会保障と地域づくり 【住民・地域の役割、事業者・行政の役割】
- ⑫ 超高齢・少子社会、高度消費社会、格差社会の諸相【生き方、老い方、社会通念】
- ⑬ 地域包括ケアの概念と展望 【住まい、生活支援、コミュニティビジネス】
- ⑭ 海外の社会保障事情 【欧米、アジアと日本の社会保障制度の比較】
- ⑮ これからの社会保障 【持続可能性、財政問題、総括とビジョン】

成績評価の方法 /Assessment Method

講師と受講生の議論をもとに進め、課題に対するプレゼンテーションやレポートを求めます。 日常の授業への取り組み・・・70% レポート(2回)・・・30%

社会保障【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時事問題や事例などを課題として討議します。社会学、法学、経済学、財政学、経営学、文化人類学などの初歩的な知識があれば理解が深まりますが、日々の新聞を読み、自ら考える姿勢や知見があれば十分に履修できる内容です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障に関する制度や方法論はもとより、それらの基底にある人間や社会の本質についても考えながら、実務や事業経営、リスクマネジメント、社会のあり方などについて議論を深めていきたいと考えています。

キーワード /Keywords

非営利法人の経営、リスクマネジメント、コミュニティビジネス、地域づくり

自治体経営【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
							○	○		○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	自治体のさまざまな課題を解決するための実践的な政策提案能力を習得する。
技能	分析解決技能	○	課題を解決するための分析や政策立案など多角的なアプローチ手法を習得する。
	実務技能		
	新規事業技能	△	新たな地域課題に対して、マネジメント手法などを活用してチャレンジできる。
態度	倫理観態度	○	地域を支え、リードする役割を自覚して、高度な公務倫理を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

自治体経営

授業の概要 /Course Description

「民間にできることは民間に」、「地方にできることは地方に」という基本的な考え方の下に、途中政権交代があったが、この20年間にわたって第一次・第二次地方分権改革が推進されてきた。その経過の中で鹿児島県阿久根市等で起きた混乱を契機とした地方自治の根幹ともいえる首長と議会の二元制のあり方や、大阪都構想をはじめとした大都市制度が見直され、2014年には政令指定都市の権限の拡大や新たな広域連携制度の創設などが行われた。

地方分権については、これまで自治体の政策の自由度を高める規制改革は進められているが、住民自治の拡充や税財源の改革は今後の大きな課題となっている。また、人口減少・高齢化による「地方消滅」が危惧され、地方創生の取組がスタートしている。自治体経営にあたっては、多くの課題が山積する中で、民間企業と同様にヒト、カネ、モノなどの資源を活用して、地域を効率的・効果的、かつ持続可能に経営していくことは変わらない。そのため自治体の人事・組織、税財政、資産の仕組みなどの公共セクターの特性を十分に理解したうえで、福祉・医療、都市計画など個別の政策分野を通して、自治体の経営戦略、ガバナンスの課題、方向等について具体的な事例を取り上げ討論して学ぶ。

教科書 /Textbooks

授業の際に、必要に応じて資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『行政学(新版)』(2001年)、 『行政の活動』(2000年) 西尾勝 有斐閣
- 『行政学』(2013年) 曾我謙悟 有斐閣
- 『日本の地方財政』(2014年) 神野直彦・小西砂千夫 有斐閣
- 『人口減少時代の自治体経営改革』(2013年) 大庫直樹 時事通信社

自治体経営【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 地方自治体を取り巻く社会・経済環境の変化
【人口減少、少子・高齢化等、地域経済の停滞】
- ② 地方自治体の組織・人事制度・倫理
【組織・権限、公務員倫理】
- ③ 地方分権改革などの動き
【地方分権、自治法の改正などの動き】
- ④ 特定課題テーマ
【ゲストスピーカー講義、学生との意見交換】
- ⑤ 議会
【議会の役割、課題】
- ⑥ 地方自治体の財政制度 I
【国と地方財政制度の特色】
- ⑦ 地方自治体の財政 II
【財政構造、一般会計・特別会計・企業会計など】
- ⑧ 地方自治体の財政 III
【財政を分析する】
- ⑨ 地方自治体の計画・行政評価
【基本構想など計画、行政評価】
- ⑩ 地方自治体の政策 I
【保健・福祉・医療政策】
- ⑪ 地方自治体の政策 II
【教育、地域づくり政策】
- ⑫ 地方自治体の政策 III
【都市計画】
- ⑬ 課題発表、議論
【学生による発表、論議】
- ⑭ 監査、住民訴訟など
【内部統制】
- ⑮ まとめ
【これからの自治体経営の課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、課題に対するプレゼンテーション(70%)、授業の状況(質疑、意見、発表等30%)をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の際に必要ながあれば、その都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生の皆さんの活発な議論や質疑を期待します。

キーワード /Keywords

産学連携と事業創造 【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 事業創造に向けた産学連携にとって必要な実践的な知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ 事業創造に向けた産学連携のコラボレーションの仕組みを具体的に提案できる。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業変革を促す産学連携のコラボレーションの具体的な企画を提案できる。
	地域リーダー態度	○ 様々な地域の資源を生かした産学連携のスキームを提案できる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

産学連携と事業創造

授業の概要 /Course Description

知識社会へのシフトによって、わが国では1990年代後半から大学や研究機関等の知的インフラの成果をいかに効果的にビジネスに結びつけるかが重要課題となっている。そのため、行政はこの10年ほど積極的に科学政策や産業政策を展開させて「産学連携」を押し進めている。しかしながら、その現場では各担い手の認識の不足やお互いのコミュニケーション不足によって多大な困難が生じており、順調に成果があがっているわけではない。よって、本講義では産学連携による新事業開発に焦点をあて、成果をあげるためのマネジメントについて事例を踏まえながら考察する。また、産学連携の成果の1つである知財の戦略については、⑦～⑩において弁護士知財ネット九州・沖縄地域会から講師を招聘し、講義を実施する。

なお、本講義の到達目標は、①知財を意識した産学連携のスキームをプランニングできる、②将来性があり現実的な産学連携プロジェクトのテーマを探索できる、③有機的かつ実践的なチーム体制を提案できる、である。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 馬場靖憲 / 後藤晃 『産学連携の実証研究』東京大学出版、玉井克哉
- 宮田由紀夫 『日本の産学連携』玉川大学出版部
- 二神恭一 / 日置弘一郎 『クラスター組織の経営学』中央経済社

産学連携と事業創造 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①産学連携のバックグラウンド
【知識経済】【コラボレーション】【イノベーション】
- ②我が国の地域産業政策と科学政策の変遷
【技術移転】【クラスター政策】
- ③産学連携支援組織の仕組みと活動内容
【TLO】【産学連携支援組織】【コーディネート】【行政の役割】
- ④産学連携支援組織の実態と課題～クラスターマネジャーの経験から～
【チームマネジメント】【コラボレーション】【外部マネジメント】
- ⑤産学連携の実際～U教授とS社の事例から～（現場報告）
- ⑥産学連携の実際～U教授とS社の事例から～（ディスカッション）
- ⑦知的財産権の基礎【特許権】【特許申請】【商標権】
- ⑧共同研究開発計約のポイント
【秘密保持契約】【基本契約】【共同開発契約】【職務発明規定】
- ⑨産学連携プロジェクトの事業化に向けた課題I（ディスカッション）
～ケーススタディ：中堅企業K社～
- ⑩産学連携プロジェクトの事業化に向けた課題II（ディスカッション）
【マーケティング】【デスバレーの克服】【事業化体制】【事業創造】
- ⑪産学連携プロジェクトの課題III（ディスカッション）
～ケーススタディ：ベンチャー企業N社～
- ⑫産学連携プロジェクトの事業化に向けた課題II（ディスカッション）
【特許権】【ベンチャー】【研究開発】【デスバレーの克服】【戦略的提携】
- ⑬産学連携プロジェクト・プランの作成I
～テーマやリソースの探索～
【成長産業戦略】【スマート・グリッド】【EV】【感性ビジネス】【環境ビジネス】
- ⑭産学連携プロジェクト・プランの作成II
～プロジェクト体制の構築と知財への対応～
- ⑮産学連携プロジェクト・プランのプレゼンとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ⑧と⑩のケーススタディに対する課題およびディスカッション（50%）
- ⑬および⑭の成果である産学連携プロジェクトプラン（30%）
- その他の日常的なディスカッションに係わる貢献度（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

知的財産権に関連する講義を2コマ実施しますが、特に法律的な知識は求めません。ただし、イノベーションや商品開発（事業創造）に対する基礎的な知識を習得していることが望ましいです。また、ポーターのクラスター論の習得をお薦めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

産学連携や知的財産など一般的にはとっつきにくいテーマを扱いますが、できる限りわかりやすく講義を行いますので気軽に受講してください。

キーワード /Keywords

コラボレーション、イノベーション、知的財産権、産学連携、チームビルディング、デスバレー、クラスター政策

アジア型経営 【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 岸本 千佳司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
								○		○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ アジア型経営の理解に必要な理論的専門知識を修得する。
	実践知識	○ アジアビジネス展開に当たって現地の異文化や制度に関する知識を習得する。
技能	分析解決技能	○ アジアビジネス展開に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその分析と解決策の提示ができる。
	実務技能	
	新規事業技能	△ アジア地域の特殊性を踏まえた新事業展開に必要とされる技能を修得する。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ アジアビジネス展開にあたって必要とされる挑戦的姿勢と変革する能力を修得する。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	○ アジアビジネス展開に必要とされる相互理解の態度と協調的姿勢を修得する。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

アジア型経営

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

この20数年、日本経済の対東アジア依存度が大幅に高めてきた。東アジア域内でも特に市場としての中華地域（中国大陸、台湾、香港・マカオ、シンガポール）、ビジネスパートナーとしての中華系資本（中華地域の資本に、地域外の華僑・華人系資本を）との結び付きが日増しに深まってきている。こうした現実に鑑み、本講義では日本企業の対東アジアビジネス展開に必要とされるこうした現地企業の経営様式（企業制度と経営システムの特徴、競争優位性など）に関する体系的知識と分析視点を学ぶことにウェイトをおいている。前半においては儒教文化の影響下にある中華系企業の経営様式の共通性を取り上げ、後半では個別（台湾系や香港系、中国大陸民営系、ASEAN華人系）の資本グループの特殊性に光を当てる。比較経営の視点から、日本企業との比較を心掛けていく。

教科書 /Textbooks

手作り資料を配布していく予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大橋英夫、丸川智雄著 『中国企業のルネサンス』 岩波書店
 王効平、尹大栄、米山茂美著 『日中韓企業の経営比較』 税務経理協会
 王効平著 『華人系資本の企業経営』 日本経済評論社
 末廣昭著 『ファミリービジネス論』 名古屋大学出版会
 担当者が執筆した関係調査報告資料

アジア型経営【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション：なぜ東アジアか？
【儒教資本主義】【開発独裁】【キャッチアップ型工業化】
- ② 東アジア、特に儒教文化圏の財閥企業の位置づけ
【韓国系財閥】【中華系財閥（含【華人系財閥】）】
- ③ 東アジア財閥系企業の経営様式I
【企業経営と文化】【企業統治構造】【事業継承】
- ④ 東アジア財閥系企業の経営様式II
【経営の内部特性】【戦略立案】【組織特性】
- ⑤ 東アジア財閥系企業の経営様式III
【管理システム】【財務構造】
- ⑥ 「ネットワーク重視型」の特性とは
【資本関係】【取引関係】
- ⑦ 中国民営企業の経営制度
【民営化とMBO】【私営企業】【独立取締役】
- ⑧ 中国民営企業の経営システム（事例紹介を通して）
【意思決定】【シビアな業績評価】【短期雇用契約】
- ⑨ 台湾系企業の経営制度
【オーナー経営者】【鶏頭牛後】
- ⑩ 台湾系企業の経営システム
【意思決定】【帰属意識】【管理システム】
- ⑪ 台湾系企業の産業クラスターと創業・新事業支援体制
【分業構造】【企業間ネットワーク】【イノベーションシステム】
- ⑫ 台湾系企業の生産システム構築に見られる競争優位
【受託製造業（OEM / ODM）】【Global Value Chain(GVC)】
- ⑬ ASEAN華人系企業の経営制度（事例紹介を通して）
【土着民優遇政策】【事業継承】
- ⑭ ASEAN華人系企業の経営システム
【儒商と利益志向】【事後合理性重視】【マーケティング戦略】
- ⑮ 総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出状況・完成度 50%、討議参加の積極さ50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ◆ 関係資料のウェブアップロード、事前配布資料の予習をした上の受講が望ましい
- ◆ 「国際経営」との同時受講が受講済みが望ましい
- ◆ 数回グループ発表を課す予定

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ◆ 課題提出期限の厳守
- ◆ 双方向のコミュニケーションを心掛けて進めたいので、積極的な発言、質疑を期待しています

キーワード /Keywords

NPO / NGO実践論 【夜】

担当者名 /Instructor 奥田 知志 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	NPO活動に関連する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能	○	NPO活動を立ち上げ運営するために必要な力を身につける。
態度	倫理観態度	○	社会的問題に関心を持ち、的確な課題を抽出できる力を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	NPO運営の視点から、地域における諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

NPO/NGO実践論

授業の概要 /Course Description

本講義では、NPOの果たす社会的役割をより現場に近い視点から検証する。また、今後の社会におけるNPOの可能性を模索しつつ、行政、企業、地域社会との社会的協働におけるNPOの果たす役割について考察する。
一方、日本においてはNPO法制定より10年に満たず、組織、資金の脆弱さと共にNPOの存在意義そのものが問われている。なぜ行政ではなく、また企業でもなく、さらに既存の公益法人ではなく、NPOが必要とされるのかを具体的な課題と向かい合う上で検証したい。また、NPOの運営についても検討する。

教科書 /Textbooks

授業ごとに資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 『ホームの回復』 明石書店
 - ② 『世界のNPO』 早稲田大学出版部
 - ③ 『NPOという生き方』 PHP新書
- その他授業にて紹介

NPO / NGO実践論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【NPOの現代的意義 - 草の根の視点から】
- ② NPO法およびNPOの現状について
【NPOとは何か】
- ③ NPOの視座-基盤としてのミッション
【使命の問題】
- ④ ボランティア論
【無償・有償ボランティア】
- ⑤ 協働論 1
【行政との協働】
- ⑥ 協働論 2
【企業との協働】
- ⑦ 協働論 3
【地域との協働】
- ⑧ NPOの実際 1
【北九州ホームレス支援機構の事例】
- ⑨ NPOの実際 2
【福祉NPOの事例】
- ⑩ NPOの実際 3
【環境NPOの事例】
- ⑪ NPOの運営について
【人材・組織・財政】
- ⑫ NPOビジネス論
【NPOとビジネス】
- ⑬ 海外のNPOの事例から 1
【アメリカの場合】
- ⑭ 海外のNPOの事例から 2
【ヨーロッパの場合】
- ⑮ まとめ
【NPOの可能性について】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における発表 (40%) およびレポート (60%) にて評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎中国語【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能	◎	実用的な中国語の基礎を修得する。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

基礎中国語

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話文を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、日文中訳と中文日訳等の練習を通じて、両国語の特徴に対する理解を深める。2学期の「ビジネス中国語」を学習するため基礎を固める。なお、将来中国語検定試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も紹介し、練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語 [実用・基礎編]』 (プリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語コミュニケーションステップ24』(胡金定 他著 白帝社)
- 『中国を歩こう』(陳淑梅 他著 金星堂)
- 『中国語学概論』【改訂版】(王占華 他著 駿河台出版社)
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】(王占華 他著 駿河台出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音と複母音
3. 鼻母音・音節と音便・教室用語
4. 発音の復習とまとめ
5. 「自己紹介」(判断文・疑問文1・人称代名詞)
6. 復習と実用練習
7. 「空港で」(授受表現・存在表現・疑問文2)
8. 復習と実用練習
9. 「両替」(願望表現・数字・場所)
10. 復習と実用練習
11. 「道を尋ねる」(方位表現・移動表現・禁止表現)
12. 復習と実用練習
13. 「乗り物に乗る」(動作の進行・状態の持続・動作の実現)
14. 「宿泊」(可能表現・時点・時量)
15. 復習と実用練習

[受講者の学習経験の有無と要望に応じて、テキストや授業内容又はスケジュールを調整することがある。その際にテキストの代わりにプリントを配布する。]

基礎中国語【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の練習50%、期末試験50%の割合で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中華圏の経営思想【夜】

担当者名 /Instructor 古田 茂美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	中華圏における経営思想について専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	中華圏における経営思想を理解し、グローバルビジネスに携わる上での倫理観を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	文化圏の違いを理解し、相互理解の上にビジネスを発展させていく態度を身につける。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中華圏の経営思想

授業の概要 /Course Description

中華地域の勃興によって強力な東アジア経済圏が形成されようとする今、中華圏の経営思想に関する知識の吸収が日系資本による東アジアビジネス展開に必要な不可欠になってきている。

経営活動には資源が投入され、それが管理統合されて、事業レベル、全社レベルで付加価値を創造し、当初の経営目標を達成するという「資源論」の立場を採用した考え方が経営学の基本をなしている。本講義では対中華圏ビジネスにおける「中華的経営資源」を取り上げるが、それらは中華（中国人）社会に賦存して、独自の運動法則を持つもので、特にミクロ行動原理を支える中国伝統哲学思想が基礎をなしている。儒教思想、道教思想、法家思想、孫氏の兵法などの伝統的哲学思想が中華系（または華人系）の経営思想を形作っているため、本講義ではこれら代表的なものを取り上げ、その誕生の背景、中華社会構造に及ぼす影響、中華ビジネスにおける応用に対して理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

プリント配布の予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 古田茂美著『中華文化圏進出の羅針盤』ユニオンプレス、2005年
- 古田茂美著『「兵法」がわかれば中国人がわかる』ディスカバー、2011年
- David.K.Tse & 古田茂美共著『グワンシ』ディスカバー、2011年
- David.K.Tse & 古田茂美共著『中国人との「関係」のつくりかた』ディスカバー、2012年

中華圏の経営思想【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン
【東洋と西洋】【マクロ環境】【ミクロ行動原理】
- ② 中国人社会の歴史的考察
【中華】【中国】【華人社会】【古典思想と経営】
- ③ 中国に於ける公私概念と公倫理の特質
【溝口雄三】【繋がりの公】【場の公】
- ④ 「儒教」I：孔孟思想の誕生とその継承
【春秋戦国】【論語】【三綱五常】
- ⑤ 「儒教」II：現代中華（華人）社会における儒教の影響
【信用】【関係（グアンシー）】【組織協調】
- ⑥ 「道家と道教」：根強い民衆信仰と現代への影響
【老荘思想】【媽祖信仰】【関帝】
- ⑦ 「法家」の思想構造とその影響
【韓非】【性悪説】【信賞必罰】【法と術】
- ⑧ 「兵法・孫子」I：誕生の背景
【戦国時代の諸兵法】【儒教との関係】
- ⑨ 「兵法・孫子」II：36計の個別事例研究
【天時、地利、人和】【走为上】【慾擒故縱】
- ⑩ 「兵法・孫子」III：ビジネスにおける応用
【競争理論】【Win-Win】【戦わずして勝つ】
- ⑪ 「兵法・孫子」IV：西側の軍事とMBA教育における扱いの実状
【Art of the War】【軍事教典】【Tony Fang】【湯浅邦弘】
- ⑫ 中華系経営者のケース
【李嘉誠】【蔡冠深】【張瑞敏】
- ⑬ 日本企業経営者のケース
【『論語と算盤』】【松下幸之助】【稻盛和夫】
- ⑭ 総合討議I、II（受講者による発表を義務付ける）
【西洋と東洋哲学の異同】【対中事業戦略への応用可能性】【日本企業の失敗ケース】
- ⑮ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出状況30%、討議参加の積極さ30%、見解の独自性40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前配布資料の予習をした上の受講が望ましい。
その他のグローバル関係の講義との並行履修が望ましい。
課題提出期限の厳守。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

SNSで資料、情報の共有に努めます。
重要な事項について必要があればその都度連絡します。

キーワード /Keywords

中華圏の貿易実務【夜】

担当者名 /Instructor 前田 知 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	中華圏との貿易に関連する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能		
	実務技能	◎	中華圏との適切な貿易実務に携わることができる力を身につける。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	文化圏の違いを理解し、相互理解の上に貿易を推進していく態度を身につける。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

中華圏の貿易実務

授業の概要 /Course Description

貿易実務とは貿易取引を円滑に進めるために必要な手続きであり、国際ルールや商慣習に基づいて形成されている。国により言語、商慣習、経済事情が異なるため、業務としての貿易実務を習得するだけにとどまらず、相手国の事情や制度を理解しリスク回避の術を身につけながら貿易取引を行うことが求められる。本講義では、適切な貿易実務を習得することを念頭におき貿易に関する実践的な専門知識を学ぶ。後半では中国と貿易を行う貿易会社のケースを取り上げ、その事業展開の経緯と戦略を紹介するとともに、日本とは異なるビジネス慣習を持つ中国とのビジネス事例について紹介する。これによって中華圏における貿易実務について幅広い知識を得るとともに、中華圏貿易で生じる様々な問題に対応する力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

片山立志著『貿易実務の本』成美堂出版 2013年 1,400円
 塩崎利佐治著『中国貿易輸入実務入門』文芸社 2008年 4,000円

中華圏の貿易実務【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【貿易のしくみ】【国内取引と貿易取引の違い】
- ② 国際取引の枠組と輸入貿易の法的規制
【貿易管理制度と貿易関係諸法規について】
- ③ 契約の成立・締結
【売買契約書】【取引交渉と取引条件】
- ④ 貿易取引の条件設定と価格算定
【2010年版インコタームズ】【貿易に係るコストの種類】
- ⑤ 貿易代金の決済と外国為替
【信用状(L/C)】【D/P手形、D/A手形】【T/T送金】
- ⑥ 貨物の輸送と貿易実務
【国際複合輸送】【LCL貨物とFCL貨物】
- ⑦ 貨物の荷受け実務(1)
【SEA NACCSによる輸入手続き】【船荷証券と輸入申告書類】
- ⑧ 貨物の荷受け実務(2)
【輸出入関税】【評価申告書】
- ⑨ ケース 日中貿易会社の事例(1)
【日中貿易に向けた戦略と構造】
- ⑩ ケース 日中貿易会社の事例(2)
【契約締結から輸入許可まで】
- ⑪ ケース 日中貿易会社の事例(3)
【クレームの種類、回避、回収について】
- ⑫ ケース 日中貿易会社の事例(4)
【現状かかえる課題とその対策】
- ⑬ 貿易形態の多様化
【人民元決済】【加工貿易】【仲介貿易】
- ⑭ 税関の役割と機能
【納税と関所】【事前教示】【AEO制度】
- ⑮ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、日常の授業への取り組み...40%、小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「中国ビジネス」「アジア型経営」「中国圏の経営思想」「ビジネス中国語」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域プロジェクト・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 網岡 健司 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	プロジェクトマネジメントに関連する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	◎	プロジェクトの素材発掘ができ、プロジェクトの実現に必要な分析ができる。
	実務技能		
	新規事業技能	○	プロジェクト構想を企画化し、新規事業計画書を作成する力を身につける。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	プロジェクトの課題を適切に把握し、課題解決策を提案する力を身につける。
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとしてプロジェクトマネジメントに積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域プロジェクト・マネジメント

授業の概要 /Course Description

魅力的で活力ある地域づくり・まちづくりにあたって、国・自治体等の施策や制度の単純導入あるいは企業・事業の誘致等に依存する時代は終焉しつつあり、今後は地域・コミュニティの未来を創造するため、市民（あるいは企業市民）自らが主体的に地域の資源を活用してプロジェクトを発想・企画し、事業化・運営していく意思と行動が求められている。このような地域プロジェクトは、事業目的、分野、事業主体・手法等多様多様であるが、本コースでは、いくつかの実例等を通じて、プロジェクトを牽引するリーダー（あるいはフォロワー）としてのビジョン、ミッション、パッションを学ぶことを目標としたい。

教科書 /Textbooks

必要に応じて指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アルビン・トフラー著「第三の波」、「未来の衝撃」、クリス・アンダーセン著「メーカーズ」など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① ガイダンス
 - ② 地域プロジェクト講座の概観
 - ③ 地域プロジェクトの実際
 - ④ 地域課題の分析、発掘
 - ⑤ 公的プロジェクト開発とマネジメント1 (基盤整備関連)
 - ⑥ 公的プロジェクト開発とマネジメント2 (ソフト整備関連)
 - ⑦ ソーシャルビジネス分野におけるプロジェクト開発とマネジメント1
 - ⑧ ソーシャルビジネス分野におけるプロジェクト開発とマネジメント2
 - ⑨ ICT関連プロジェクト: e-PORT構想など 1
 - ⑩ ICT関連プロジェクト: e-PORT構想など 2
 - ⑪ スマートコミュニティ創造事業(東田コジエネ事業など) 1
 - ⑫ スマートコミュニティ創造事業(地域エネルギー事業) 2
 - ⑬ これからの地域プロジェクト: スマートファブシティ構想、リノベーションなど
 - ⑭ 各自の地域プロジェクト構想の企画演習
 - ⑮ 振り返りとまとめ
- (* プロジェクト事例は変更することがあります)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時における積極的な発言 30%、課題プロジェクト 70% (レポート 40%、プレゼン 30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域プロジェクト・マネジメント【夜】

履修上の注意 /Remarks

2コマ連続の隔週講義を基本とします
個別の地域プロジェクトの関係者等による紹介やディスカッション等を実施

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民間企業に所属しつつ、行政、大学、NPO等との協業で取り組んできた様々な地域プロジェクトの実例や推進主体の方々との議論などを通じて実践的な内容としていきたい。

キーワード /Keywords

コミュニティデザイン、創造的都市、プロシューマー、多様性と包摂性

ビジネス中国語【夜】

担当者名 /Instructor 森田 三恵子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能	◎	ビジネスで使用される基本的な中国語を身につける。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	日本語と中国語の言語表現の違いを理解した上で、コミュニケーションができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

ビジネス中国語

授業の概要 /Course Description

日中経済が緊密化する中、ビジネス中国語によるコミュニケーション能力はますます重視されるようになってきています。この科目では単なる日常会話と違い、ビジネスで常用される決まり文句、独特な言い回し、各種ビジネス書類の読み方、作り方を学んでいきます。一定の中国語基礎能力も持っている方の受講が望ましいです。

教科書 /Textbooks

中国語初級テキスト「仕事のための基礎中国語」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ビジネス中国語会話、北京駐在日記等を参考にする。必要に応じて参考書を指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 発音の総復習、中国語による自己紹介
- ② 空港出迎え、見送りの会話、日程確認等
- ③ チェックイン、チェックアウト等ホテルでの会話
- ④ ホテル予約時の会話
- ⑤ 天気、数字、時間等の表現
- ⑥ 電話を掛けるとき、受けるとき等の会話
- ⑦ 両替、タクシーに乗る時のフレーズ
- ⑧ 接待、宴会などの決まり文句、フレーズ等
- ⑨ 商談業務に関するビジネス用語
- ⑩ 価格交渉等に関するビジネス用語
- ⑪ 契約書提携等に関するビジネス用語
- ⑫ 空港カウンター、チケットの予約に関する会話
- ⑬ お客様との待ち合わせ、約束に関する会話
- ⑭ 出張、会社見学、観光地等におけるビジネス会話
- ⑮ まとめ、テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への参加姿勢 (30%)、終了テスト (70%) による評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ビジネス中国語【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があれば、その都度連絡します。
国際経営を履修しておくことが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

失敗を恐れず、恥ずかしがらずに繰り返し発音をすることと、予習復習が重要です。皆さんの語学力の更なる向上を期待します。

キーワード /Keywords

経営学特講【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	海外ビジネススクールのカリキュラムに接し、その現地社会的ニーズへの対応を実体験する。
技能	分析解決技能		
	実務技能	○	外国語による講義受講、卒業生ネットワークに接することによってコミュニケーション力を高める。
	新規事業技能	○	ビジネスの種、パートナーの発見ができ、国際的新規事業創出ができる能力を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	異文化を実体験することによって相互理解の態度と協調的姿勢を修得する。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

経営学特講

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が急ピッチに進んでいる中、長期低迷に喘いできた地域経済を活性化させるために、広い視野を持ち、国際感覚を有するリーダー人材の育成が急務である。経営系専門職大学院（以下ではビジネススクール）が地域産業や社会を背負って立つリーダー養成の責務を担っており、海外ビジネススクールや現地系企業・多国籍企業等における研修の機会（現場体験が可能な実践的教育プログラム）を学生に提供することによってコミュニケーション能力の向上と異文化交流の促進効果を生むと共に、グローバル的なビジネスの開拓・促進に寄与することが期待されている。

本特講は日本と強い相互依存関係にあり、高成長を継続させている中華圏や東南アジアにおける視察研修を主要内容とする。企業視察やビジネススクールとの直接交流を通じて、国際感覚の養成、海外ビジネスの実体験、ビジネスネットワーク（人脈）作りを狙う。開講時期は夏季集中講義期間中の予定。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しないが、研修計画書（マニュアル）を策定し、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 研修先の紹介資料
 - ・ 過年度の海外研修報告書
- 他に必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 出発前のオリエンテーション
- 2 現地ビジネススクールによる特別講義I
- 3 現地ビジネススクールによる特別講義II
- 4 現地企業経営者による特別講義III
- 5 現地ビジネススクール開講講義参観
- 6 ビジネススクール在学生との交流イベント
- 7 ビジネススクール卒業生との交流イベント
- 8 現地系企業視察A
- 9 現地系企業視察B
- 10 現地日系法人視察C
- 11 現地外資誘致当局ヒアリング
- 12 現地開発区参観
- 13 現地における研修成果共同発表
- 14 レポート提出
- 15 帰校後の成果発表（グループ）

経営学特講 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

企画準備・現地活動への参加度 50%
課題レポートの出来栄え 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

一定程度の語学力を自ら身につけることが望まれる
出発前に求められる準備事項に責任を持って取り組むこと
現地では協調性を持って行動することが望まれる

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループ行動が中心であるため、個別行動を避けて頂きたい。

キーワード /Keywords

企業法務とリスクマネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 吉浦 初音 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 企業活動に関連する法律事務とリスクマネジメントについての専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	◎ 企業法務における課題を発見し、適切なリスクマネジメントを行える能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業法務およびリスクマネジメントの観点から企業変革に携わることができる。
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとしての自覚を持ち、リスクマネジメントに取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

企業法務とリスクマネジメント

授業の概要 /Course Description

近年のコンプライアンス（法令遵守）重視の社会的要請や契約社会化の流れを受け、法的リスク・コントロールは、今や企業規模に関係なく全ての経営者・マネジメント層の必須スキルと言える。とはいえ経営層に必要なのは細かな法律知識や法解釈の能力ではなく、ビジネス遂行上のリスクに気づき、その解決や予防のため弁護士等の専門家を活用できるスキルである。本講義では、総論（①～④）で企業運営や事業遂行を貫く法原理を概観した後、各論（⑤～⑩）ではビジネスの様々な局面を規律する法律を取り上げ、その保護法益を学ぶことでリスクマネジメント能力を養成する。最後に総括（⑪⑫）としてM&Aを題材に契約交渉演習を行い、リスクマネジメントの実践を感得する機会とする。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西村あさひ法律事務所編『ビジネスパーソンのための企業法務の教科書』2012年 文春新書
中島茂『最強のリスク管理』2012年 金融財政事情研究会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 企業法務とリスクマネジメント序論～なぜ企業に法令遵守が求められるのか
- ② 取締役責任とリスクマネジメント【会社法】
- ③ ビジネス取引の基本～契約自由の原則と修正によるFairnessの追求【民法】
- ④ 法的紛争の解決と弁護士の活用【民事訴訟法】
- ⑤ 公正な競争(1) 私的独占・カルテル【独占禁止法】
- ⑥ 公正な競争(2) 不当な取引制限【独占禁止法、下請法】
- ⑦ 知財戦略【特許法】
- ⑧ 著作権と情報の保護【著作権法・不正競争防止法】
- ⑨ 人事労務に関する法規制(1)【労働契約法】
- ⑩ 人事労務に関する法規制(2)【労働基準法】
- ⑪ M&A(1) 企業買収の流れ
- ⑫ M&A(2) 買収契約書と法規制
- ⑬ 国際取引の基本【国際私法・裁判管轄】
- ⑭ リスクマネジメント演習(1) M&A買収対象企業のリスク評価
- ⑮ リスクマネジメント演習(2) M&A契約交渉

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（質疑、発言等）：30%、小テスト：30%、リスクマネジメント演習（交渉内容、チームへの貢献等）：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業法務とリスクマネジメント 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

真に尊敬される経営者は、Fairness（公平性）やIntegrity（高潔性）を備えています。法律とはステークホルダー間の利害を調整するためのルールであり、ビジネス法を学ぶことで、こうした経営者の資質を磨いてほしいと考えています。

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。
具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。
なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導
 【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
 各グループ担当の専任教員による指導
 【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
 ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 森永 泰正 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 山口 徹也 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 吉浦 初音 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40％）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60％）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 森永 泰正 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 山口 徹也 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 吉浦 初音 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
 プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。
各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する
 プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords